

大内賞受賞者と業績

昭和 28 年度 (1953 年)

1 著書、論文及び統計技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

津村 善郎	推定値の分散の計算・標本抽出理論・諸外国の統計推論並びに技術の導入により統計の発展に貢献した。
-------	---

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

神原 泰	大正 9 年以來 33 年間、統計実務に従事し、特に戦後の生産動態の整備・改善の協力活動に貢献した。
竹沢 正武	明治 38 年以來 48 年間、統計実務に従事し、金融統計の整備・充実並びに指導と育成に貢献した。
松本 種吉	大正 13 年以來 30 年間、農家経済調査の調査農家として継続し、国に重要な資料を提供した。
八島 喜右衛門	延 10 万に達する統計資料を戦後焼却破棄から守り、福島県政の再建・振興に貢献した。

昭和 29 年度 (1954 年)

1 著書、論文及び統計技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

妹尾 巖	多種衛生統計の企画・実施、簡易生命表の計算、医療機関総合計画の科学的算出、県人口の推計等統計の利用開発に貢献した。
林 知己夫	数量化の理論と応用について研究を行い、標識の数量化と多変量の解析を開拓、統計に応用した。

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

多田 誠	20 数年間統計実務に従事し、農家経済調査、農業経営調査等の調査方法の基礎を確立した。
村山 高	綿業統計の基礎の確立と統計資料の散逸を防ぎ国際的交流に努めた。
吉川 弘	昭和 9 年以來 17 年間、統計実務に従事し石炭鉱業の統計の改善・整備、また「石炭統計総覧」を編さんした。

昭和 30 年度 (1955 年)

1 著書、論文及び統計技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

瓜生 卓爾	鉄道統計の機械化を図り、運輸統計全般の拡充整備に努め、国鉄運輸統計を万国の水準に達せしめた。
畑中 広一	標本実測調査による農作物面積の総合的調査の体系化を図った。

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

阿部 清八	明治 43 年以來 44 年間、各種統計調査員として正確な資料の収集、提出により、我が国の統計に貢献した。
篠原 真平	大正 7 年以來 36 年間、各種統計調査の機械集計技術の向上に努めた。
滝田 庄十郎	大正 3 年以來 40 年間、農業経済調査の調査農家として記帳を継続し、国に重要な資料を提供した。

昭和 31 年度 (1956 年)

1 著書、論文及び統計技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

斎藤 金一郎	標本理論の研究に専念し、標本調査理論を実際の成果の上に展開した「標本調査の設計」、「標本抽出推定論」を著述した。
藤井 俊治	農作物生産費調査の体系整備に努め、特に原価計算のための原単位の調査と生産費の分析加工等統計技術による。

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

大山 寅正	昭和 5 年以來 28 年間、統計実務に従事し、地方統計の改善・整備並びに統計思想の普及に寄与した。
桑原 季隆	多年鉄鋼統計の実務に従事し、業界全般の統計の整備と充実に努めるとともに、官庁統計の改善に協力した。

昭和 32 年度 (1957 年)

1 著書、論文及び統計技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

山本 忠	海面漁業漁獲高統計調査に関し標本利用を応用し、正確・迅速等調査体系を樹立した。
------	---

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

大井 久世	昭和 3 年以来通算 28 年間、地方統計機構の拡充発展と統計思想の普及に貢献した。
高瀬 千波	昭和 2 年以来 30 年間、統計実務に従事し、日本経済の統計的把握に尽力した。
馬淵 新市	大正 3 年以来 41 年間、統計実務に従事し、貿易統計、輸入統計等の改善・整備に尽くした。
南 栄	明治 32 年以来 26 年間、統計の振興に努力し、農林商工統計の発展に寄与した。

昭和 33 年度 (1958 年)

1 著書、論文及び統計技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

近藤 次郎	統計教育の開拓と振興に努力し、「小中学校における統計教育の理論と実際」、「教育における統計利用」を著した。
白石 一誠	「教育統計調査」、「教育統計学」、「統計とその指導」等を著し、教育統計の進歩に貢献した。

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

武内 信男	昭和 3 年以来 30 年間、通産統計の充実と基礎を築き、統計の進歩に貢献した。
谷口 甚角	大正 14 年以来 33 年間、各種統計調査員として活躍し、調査員の常任制度など統計の振興に貢献した。
山本 栄子	大正 9 年以来 38 年間、統計実務に従事し、統計の精度、公表の迅速・指導等に貢献した。

昭和 34 年度 (1959 年)

1 著書、論文及び統計技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

白崎 享一	30 年間、統計普及事業に当たり、「日本国勢図会」を始め、著書論文を通じて統計の進歩に貢献した。
-------	--

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

坂田 博吉	昭和 8 年以来 26 年間（うち統計課長として 4 年間）、地方統計の育成に貢献した。
塩屋 久吉	大正 5 年以来 40 年間、農林統計実務に従事し、統計理論の発展に寄与した。
野田 好郎	国鉄において 15 年間、鉄道統計の機構の確立と総合体系に尽くし、統計の進歩に貢献した。
山畑 俊吉	昭和 6 年以来 29 年間、物価統計調査を始め各種調査を通じて、我が国経済の統計的把握に貢献した。

昭和 35 年度 (1960 年)

1 著書、論文及び統計技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

石国 直治	15 年間にわたり統計事務に従事して、統計及び統計の利用に関する著書・論文等を著し、また統計技術により貢献した。
加用 信文	著書・論文及び直接指導により、我が国の農業統計の理論的整備の確立に貢献した。

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

大西 与平治	昭和 20 年以来 30 余年間、統計実務に従事し、鉄道統計の体系を整備、基礎の確立に貢献した。
小林 栄治	30 年間、統計実務に従事（統計課長として 15 年間）し、地方統計機構の再建整備に貢献した。
高橋 義正	昭和 6 年以来 30 年間、経営調査等の農家として記帳を続け、農林行政に貴重な資料を提供した。

昭和 36 年度 (1961 年)

1 著書、論文及び統計技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

畑村 又好	農業部門における近代統計学の研究とその発展に尽くした。
-------	-----------------------------

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

小笠原 二六	26 年間、地方統計の指導育成に努力し、統計の進歩に貢献した。
古藤 利久三	多年統計事務に従事し、産業の発展に寄与するとともに、官庁における統計制度の改善に協力した。
丹治 正平	多年にわたり産業団体にあつて、タール工業に関する統計の整備拡充に努力した。
脇田 裕	多年統計事務に従事し、統計知識の普及及び統計技術の指導に努力した。

昭和 37 年度 (1962 年)

1 著書、論文及び統計技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

増山 元三郎	統計数学、実験計画法、推計学等に関し、独自の統計技術分野を研究開発した。
--------	--------------------------------------

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

沖田 豊重	昭和 9 年以来 28 年間、農家経済調査及び農業経営調査の農家として記帳を続け、貴重な資料を提供した。
高橋 昇平	大正 10 年以来通算 36 年間、統計実務に従い、工業統計を中心に工業に関する統計の整備充実に寄与した。
立花 雄四郎	31 年間（うち統計課長 6 年 7 カ月）、統計事務に従事し、地方統計の整備拡充及び育成に貢献した。
三輪 包信	昭和 17 年以来 20 年間、統計実務に従事し、官・民統計調査の改善と整備に尽くした。

昭和 38 年度 (1963 年)

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

宇都宮 肇	昭和 23 年以来 25 年間、統計実務に従事し、民間統計の充実と組織化に努力し、官庁統計の改善に協力した。
上島 長蔵	明治 42 年以来 47 年間、統計実務に従事し、地方統計の改善と育成に努力した。
遠藤 英男	昭和 5 年以来通算 23 年間、統計実務に従事し、運輸統計の整備と各種分類体系の確立に努めた。
三浦 喜代一	昭和 13 年以来 25 年間、統計実務に従事し、民間の統計の充実と官庁統計の改善に協力した。

昭和 39 年度 (1964 年)

1 著書、論文及び統計技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

水島 治夫	衛生統計学の分野において研究を重ね、各種の生命表を作成したほか、著書、論文により統計の進歩に貢献した。
-------	---

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

佐藤 幸一	多年にわたり弘前市の各種統計資料の作成とその利用に努め、統計調査員常任制度の実現、地方統計の改善等統計の振興に寄与した。
滝上 猛男	多年にわたり国鉄統計の改善、鉄道統計の基礎の確立、機械統計事務の企画に貢献した。
中谷 利兵衛	多年にわたり統計調査の企画実施、民間における統計の連絡、資料の蒐集並びに統計思想の普及に貢献した。

昭和 40 年度 (1965 年)

1 著書、論文及び統計技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

浅野 義光	国民所得及び国家資力の推計の研究を続け、国民所得推計方法に関する著書、論文を発表し、推計方法を体系化して統計の進歩に貢献した。
野村 俊夫	労働統計実務に従事し、労働統計の体系的整備、労働統計に関する著書を刊行して、統計の進歩に貢献した。

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

市村 忠治	42 年間、統計実務に従事し、県市町村統計職員の指導並びに統計活動の振興を図り、統計の進歩に貢献した。
高橋 宏基	伸銅業界の統計の改善、整備及び統計の利用について努力し、官庁統計の業務にも協力して、統計の進歩に貢献した。
滝本 潤造	地方自治体の行政の基礎となる統計資料を得るため、悉皆、標本調査等を用い、資料を刊行して地方統計調査の発展に寄与した。
西川 由造	38 年間、多角的に都市交通に関する統計学的研究を行い、論文等によって都市交通の改善を促し、統計の進歩に努めた。

昭和 41 年度 (1966 年)

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

荒賀 幸吉	41 年間、統計実務に従事し、県市町村統計職員の指導並びに統計活動の振興を図り、統計の進歩に貢献した。
大谷 勇	約 42 年間、統計実務に従事し、税関統計の改善・進歩に努め、統計の進歩に貢献した。
近藤 俊雄	約 40 年間、統計実務に従事し、統計理論の研さんと統計職員の指導及び普及に努め、統計の進歩に貢献した。
深田 正夫	約 18 年間、統計実務に従事し、指数の作成、研究及び鉱工業需給の分析に努め、統計の進歩に貢献した。
福原 静雄	約 32 年間、統計実務に従事し、統計調査の充実・改善、地域経済の実証的研究に尽くし、統計の進歩に貢献した。
渡部 光章	約 25 年間、統計実務に従事し、鉄鋼関係統計の整備改善に尽くし、また統計の普及向上に努め、統計の進歩に貢献した。

昭和 42 年度 (1967 年)

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

大島 健蔵	約 42 年間にわたり鉄道統計の実務に従事し、運輸統計の調整統合を図るなど、運輸統計の基礎を確立し、統計の進歩に貢献した。
大宮 五郎	21 年間統計行政事務に従事し、労働統計の体系的整備、資質の向上に尽くし、統計の進歩に貢献した。
高橋 春治	約 41 年にわたり統計実務に従事して、宮城県の統計調査、特に農林教育統計の改善発達と県内統計業務の円滑な実務に尽くした。
角田 厲作	厚生省において統計の機械化を図り、機械製表方式の確立に努めた。また、未熟児について論文を発表し、統計の発展に貢献した。
松村 秀夫	約 21 年間にわたり金融統計を主体とする調査研究に専念し、金融諸統計の整備、改善、企画、実施に努力し、統計の進歩に貢献した。
和田 貞吉	約 30 年にわたりアルミニウム製錬関係の統計調査業務を推進し、指定統計業務に積極的な協力を為し、統計の進歩に貢献した。

昭和 43 年度 (1968 年)

1 著書、論文及び統計技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

奥野 忠一	統計的実験計画法及び標本調査法を研究し、その研究成果を農事試験、農事統計に適用して実験面での改善に努めるとともに、著書、論文、統計技術によって統計の進歩に貢献した。
-------	--

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

金沢 弘雄	多年統計教育及び市場調査業務に従事、客観的情報処理を通じて国鉄の諸計画達成に寄与した。
久我 通武	22 年間にわたり、農林省で統計業務を担当してその改善に努め、農政の中に統計の役割を高め、また統計水準の向上に尽力した。

吉川 茂	約 27 年間に、京都商工会議所で商工関係の統計実務に従事し、特に京都経済の振興方策の研究立案、統計諸団体の指導に尽くした。
和田 憲夫	22 年間にわたり、化繊関係の統計実務に従事し、「化学繊維需給統計」等各種の統計を作成してその充実に努めた。

昭和 44 年度 (1969 年)

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

丹野 一	27 年間にわたり、鉄鋼統計業務に従事し、業界統計の充実に努め、業界内外において統計専門委員として民間統計の改善に寄与した。
中込 梅子	31 年の長期にわたり、公社債の発行償還に関する統計の作成を担当し、特に非公募債を含む全銘柄を網羅するなど、社債統計の整備改善に努めた。
相馬 龍一	多年統計実務に従事し、特に統計教育の必要性を主唱し、これを理論的に体系化してその実践指導に当たり、統計教育の育成、普及に努めた。
萩原 正元	33 年の永い間、農業経営経済調査の記帳農家として、日々の記帳に専念するとともに、農業簿記の改善普及に努め、調査設計及び利用に寄与した。

昭和 45 年度 (1970 年)

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

田中 義男	永年にわたり統計実務に従事し、市町村統計事務の充実と統計協会支部の強化を図るとともに、講習会等により統計職員の養成に努めた。
田原 大千	多年統計調査事務に従事し、企業経営部門の統計の作成と利用化を図り、また統計審議会の指数部会の委員として統計の改善に努めた。
早崎 八洲	永年統計調査の実務に従事し、社会福祉統計の体系化を図るとともに、著書、論文等によって社会福祉統計の充実と普及に尽くした。
福田 正夫	多年にわたり統計調査の事務に従事し、電線工業に関する統計報告類の様式化による整備充実を行い、また統計審議会の商品分類部会の委員として統計の改善に尽くした。
松野 竹雄	永年統計調査の実務に従事し、人口統計、衛生統計及び社会福祉調査の整備充実に努めた。

昭和 46 年度 (1971 年)

1 著書、論文及び統計の技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

後藤 新一	多年金融統計の研究に専念し、明治以来 100 年間に及ぶ金融統計の整備改善に努めるとともに、著書、論文及び統計技術によって、我が国の統計の進歩に尽くした。
-------	---

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に貢献した人

伊丹 靖享	多年にわたり電気事業に関する統計事務に従事して、その整備充実に努め、また、論文、統計技術によって四国各県の産業連関表の指導普及に努める等、地域統計の科学化に尽くした。
池田 宗八	永年統計実務に従事し、県市町村の統計職員の指導訓練を行うとともに、県勢基礎資料の作成整備に努め、また各種統計について解説する等、統計の普及向上に尽くした。
小沼 正	多年統計調査の事務に従事し、社会福祉調査の基礎体系を確立するとともに、職員の研修に努め、統計の改善普及に尽くした。
小田切 元	29 年間の永い間、統計事務に従事し、化学工業統計の充実整備に努め、また統計審議会の日本標準産業分類及び商品分類の改訂作業に協力し、統計基準の整備改善に尽くした。

昭和 47 年度 (1972 年)

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に貢献した人

滝 好英	多年統計実務に従事し、生産指数、週間卸売物価指数を始め統計の整備に尽くし、また経済指数の体系的把握に努めてその著書、論文により統計の進歩発達に貢献した。著書に「日本の経済指数」がある。
大木 達治	30 年間、終始して鉄鋼に関する統計業務に専念し、特に流通統計、海外貿易統計の整備改善に努め、業界に有益な資料を提供した。
日高 達雄	多年統計調査業務に従事し、自ら積極的に、又は官公庁の委託により、各種の統計調査を実施して、施策の立案、企画経営の改善等に貢献した。
谷 源一郎	昭和 16 年、農家経営経済調査の記帳農家を委嘱されて以来、貴重な調査結果を提供して本調査の進歩発達に貢献するとともに、これを近在農家に普及して農家経営の安定化に寄与した。

3 多年統計の普及に努め、我が国の統計に進歩に貢献した人

森脇 幸次	新聞報道に従事する傍ら、20 有余年の永い間、統計機関紙の育成に努めるとともに、統計思想の啓蒙普及、統計利用の開発に貢献した。
-------	---

昭和 48 年度 (1973 年)

1 著書、論文及び統計の技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

水野 坦	標本調査理論の研究と、これを巡る統計理論、技術に関する研究により、統計の進歩に顕著な功績があった。
------	---

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に貢献した人

小佐野 一男	25 年間、非鉄金属鉱業に関する調査統計業務に従事し、その整備改善を行う等、統計の進歩に著しい功績があった。
神崎 誠	法務省統計主管課長として 25 年の間、同省各種基本統計事務の一元的運営と資料の体系的整備を行い、特に犯罪統計の確立に貢献した。
山口 政一	昭和 28 年以來、漁家経済調査の記帳漁家として、貴重な資料を国に提供するとともに、統計調査員として実査に従事し、優秀な成績をあげた。
大録 義行	永年、茨城県の統計資料を整備充実し、またその体系的、総合的な解析を行って、地域開発及び総合農政の推進に貢献した。
益田 重華	多年、建設業の調査統計業務に従事し、標準建築費指数等の作成を始め、建設統計の整備改善に寄与した。

昭和 49 年度 (1974 年)

1 著書、論文及び統計の技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

菊地原 英和	気象統計業務に従事し、気象統計の基本的、応用的研究を行うとともに、気象統計資料の整備充実及び業務の近代化に努め、統計の進歩に貢献した。
日野 源四郎	行政管理庁、総理府統計局等に勤務し、統計分類の研究を行い、統計用諸標準分類の設定とその整備改善に努め、統計の改善発達に寄与した。

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に貢献した人

梅村 清郎	大正 13 年、農商務省から農業経営改善の記帳農家を委嘱されて以来 50 年の長年にわたり、各種統計調査の対象農家として貴重な資料を提供し、統計の進歩に貢献した。
竹田 実	日本鉄鋼連盟創立以来 25 年の間、鉄鋼及びこれに関連する諸統計の整備改善に貢献するとともに、統計に関する国際協力、啓蒙活動、研究機構の充実等に努め、統計の進歩に寄与した。
泉 省一郎	30 有余年、地方統計実務に従事し、各種統計調査の実施に当たっては優れた成績を挙げ、また統計資料の整備充実、その加工分析及び統計思想の普及向上に尽くし、統計の発展に貢献した。
佐々木 三千秋	30 余年の永きにわたって調査統計業務に従事し、特に昭和 27 年以來、日本商工会議所の調査統計業務を担当して経済統計の改善整備に努め、統計の進歩に寄与した。

昭和 50 年度 (1975 年)

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に貢献した人

川崎 徳次	昭和 17 年以來 33 年の長期間、農業経営経済調査等の記帳農家として記帳を続け、また農業経済調査の普及に努め、統計の進歩に貢献した。
麓 俊夫	27 年の永い間、地方統計業務に従事し、各種統計調査を企画実施し、統計思想、統計技術の普及を図る等、統計の進歩発達に顕著な功績があった。
関根 恒郎	20 有余年の間、運輸統計の整備充実、総合解析に努め、自動車輸送統計の整備に特段の努力を傾け、統計の進歩に著しく貢献した。
村井 隆重	多年、厚生統計調査業務に従事して、その基礎資料の整備に尽くし、特に時宜に即した調査を実施して厚生統計の充実を図る等、統計の進歩発達に大きな貢献をなした。
栗岡 美津夫	30 年の間、綿紡績業の調査統計業務に専念して業界統計の整備充実、綿製品需給統計の作成等により、業界並びに官庁に対して有益な資料を提供する等、統計の進歩発達に著しく貢献した。

3 多年統計の普及に努め我が国の統計の進歩に貢献した人

小浜 喜一	地方統計業務に従事し、統計資料の利用、解析に尽くしてその普及発展を図り、特に「経済指標のかんどころ」を企画発行し、統計の普及向上に著しい功績があった。
-------	---

昭和 51 年度 (1976 年)

1 著書、論文及び統計技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

友安 亮一	統計調査理論の体系化に専念し、特にその著書「統計調査総論」は高く評価され、我が国統計の進歩に貢献した功績は大である。
-------	--

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に貢献した人

浅野 秀一	軽金属統計の整備・改善・普及に努力し、業界及び官庁統計の発展に著しい功績を残した。
伊澤 専之進	統計調査員として 35 年にわたり積極的に活動し、特に統計調査員協議会を結成し、後進者の指導育成に尽くした功績は大である。
小宮山 花咲	工業統計・商業統計等の整備充実に多大の努力を払い、官庁統計の進歩、発展、普及に著しい功績を残した。
矢島 定治	統計調査員登録制度の実施以来、本制度の充実、普及に尽力し、また、メッシュ統計の開発に努力するなど、その功績は大である。

3 多年統計の普及に努め我が国の統計の進歩に貢献した人

熊井 貞美	農林統計の普及に努力し、「スライド」、「8 ミリ」、「分りやすい統計分析書」など、地域住民に統計資料を提供する等、統計の普及に著しい功績を残した。
-------	---

昭和 52 年度 (1977 年)

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に貢献した人

木村 鉦司	犯罪統計業務の合理化・近代化の推進に専念し、併せて後進者の指導育成に努め、我が国の統計の進歩に貢献した功績は大である。
南部 敬三	農業経済調査の記帳を継続する等、農業経済統計の改善整備に努め、我が国の統計の進歩に貢献した功績は大である。
中島 時雄	倉庫統計の改善整備に努めるとともに、倉庫統計関係の著書、論文を発表する等、我が国の統計の進歩に著しい功績を残した。
樋口 正志	統計調査の企画、実施及び普及の各般にわたり、地方統計の改善整備に献身し、我が国の統計の進歩に貢献した功績は大である。

3 多年統計の普及に努め我が国の統計の進歩に貢献した人

福盛田 儀兵衛	35 年の長きにわたり統計調査員として活躍し、統計思想の普及向上を図るため、岩手県統計調査員協議会連合会の設立に尽くす等、我が国の統計の進歩に貢献した功績は大である。
---------	---

昭和 53 年度 (1978 年)

1 著書、論文及び統計技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

浅井 晃	標本調査の設計等数多くの著書・論文を公にするほか、数理統計手法の実務への適用を推進し、我が国官庁統計の発展に著しい功績を残した。
------	--

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に貢献した人

大貫 要治	漁家経済調査の記帳漁家として、昭和 29 年から現在に至るまで 25 年の長きにわたり、複雑多岐な記帳を継続するとともに、地域の指導者として広く簿記調査の必要性について啓発し、我が国の統計の進歩に多大の貢献をした。
前田 正久	多年にわたり厚生統計調査に従事し、厚生統計の体系の基礎を確立し、重要な資料の整備や提供等、その功績は顕著である。
北見 亀代次	昭和 25 年の国勢調査から 6 回の国勢調査に従事するとともに、その他各種統計延べ 76 回にわたり従事している。また統計協力会の会長として、統計調査の円滑な推進、会員の調査技術の向上、親睦を図る等、その功績は高く評価される。
神野 修一	統計調査員として統計発展のため指導的役割を果たすと同時に、調査員の自主的グループとしての「中国産業統計協会」設立の原動力となり、地方における統計の普及に数多くの業績を残している。

3 多年統計の普及に努め我が国の統計の進歩に貢献した人

孫田 良平	日本賃金研究センター研究主任として、労働統計の調査・研究、利用の推進を図るとともに、「賃金統計の見方」、「実質賃金の国際比較」等数多くの著書を公刊し、統計の普及に尽くした功績は大である。
-------	---

昭和 54 年度 (1979 年)

1 著書、論文及び統計技術によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

上田 フサ	日本における疾病、傷害及び死因の統計分類に関する著書・論文を数多く公刊するとともに、国際会議においても貴重な意見の提唱や指導的役割を果たし、我が国の統計の進歩発展に大きな功績を残した。
-------	--

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に貢献した人

阿部 通	宮城県総務部調査課（現在の企画部統計課）に勤務以来、県経済実相報告書の作成、県段階における産業連関表の作成、あるいは「宮城の農業」を企画発行するなど、地域統計の中核として活躍し、我が国の統計の進歩発展に多大の功績を残した。
森田 正	多年にわたり統計調査の企画・実施に当たるとともに、地域統計調査諸機関との連絡指導、資料の蒐集を図るほか、地域経済の実証的調査研究に努める等、我が国の統計の進歩、発展に多大の功績を残した。
森武 日義	43年の長きにわたり、92回にわたる統計調査に従事するとともに、統計思想の普及を自ら先頭に立ち実施するほか、地方統計協議会、連合会の組織化を成功させる等、我が国の統計の進歩発展に著しい功績を残した。

3 多年統計の普及に努め我が国の統計の進歩に貢献した人

矢島 謹一	氏は昭和 51 年 3 月、日本国有鉄道を退職するまでの多年にわたり、多くの統計を基礎とした計量的な問題解決法を用いて、各種業務の改善と能率向上に努める（車両換算算定法など）ほか、OR を教育分野に活用し（一般教養試験の標準化）、これを広く普及するなど、我が国の統計思想の普及向上に大きな功績を残した。
-------	---

昭和 55 年度 (1980 年)

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に貢献した人

後藤 文治	昭和 28 年以来今日に至るまで一貫して所得統計の研究開発に専念し、戦後、試算的推計の域に止まっていた国民所得統計を、経済政策等の推進に当たっての不可欠の基幹的統計として整備する上で、極めて大きな功績があった。特に、国連方式による勘定体系を確立するとともに、推計方法の改善、統計精度の向上等を図る上で、中心的役割を担ってきた。また、県民所得統計についても、県民所得の標準方式及びその確定版を策定する上において多大の貢献をした。
鈴木 愛治	農業経営調査の簿記調査農家として、多年にわたり記帳を継続するとともに、地域における各種農業統計調査の円滑な実施に協力し、併せて統計の啓蒙、普及に努め、地域の指導者として地域営農の振興、発展に寄与している。
保原 鉄太郎	北海道民生部及び衛生部において、多年にわたり厚生統計調査事務に従事し、地方では困難とされている生命表の作成、人口動態統計の分析を通じての将来予測、国勢調査中間年次の性・年齢別人口推計方式の確立等の業績を挙げた。また、部位別ガン訂正死亡率と集団検診の相関分析を行って「北海道ガン地図」を作成するなど、我が国のガン統計の進歩のみならず、ガン予防対策にも多大の貢献をした。
宮里 茂	琉球政府当時における各種統計調査の整備、並びに沖縄県の本土復帰による制度移行に伴う身分引継、統計業務執行体制の制度化、及び統計調査条例の制定等に努めるなど、28年の長きにわたり統計の実務及び普及の面で我が国の統計の進歩に多大の貢献をした。

3 多年統計の普及に努め我が国の統計の進歩に貢献した人

神谷 満雄	多年にわたり中部地域の経済金融統計を収集、整理し、中部地域の経済金融指標として取りまとめるとともに、実証分析を通じて地域における経済統計の整備、調査研究に多大の貢献をした。また、「中部の経済」を始めとする著書、論文を通じて、多年統計の普及、啓蒙に努め、我が国の統計の進歩、発展に多大の貢献をした。
-------	--

昭和 56 年度 (1981 年)

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に直接貢献した人

内山 諫	(建設統計) 未整備の状態にあった建設統計の開発に精力的に取り組む、その整備改善に努めるとともに、産業連関表を始めとする二次統計の開発にも力を注ぎ、今日の建設統計の体系を築き上げた。また、統計審議会の専門委員、各種調査の調査委員長として、統計の整備改善に貢献するとともに、建設統計の普及発展に多大の貢献をした。
北森 由太郎	(地方統計：三重県) 30年の長きにわたり、地方統計業務に従事し、地方統計における業務の向上発展と、県における統計資料の充実に努めた。三重県庁退職後は、統計調査員として各種統計調査に従事するとともに、他の統計調査員の指導に尽力する等、統計の進歩発展に著しい功績を挙げた。

佐藤 彌之介	(地方統計：横浜市) 30年の長きにわたり、地方統計の充実発展に寄与し、地方行政施策の基礎資料としての総合統計書の作成及び地域開発の基礎データとしてのメッシュ統計の充実に努めた。また、横浜市に常任統計調査員制度を導入し、統計調査員の身分及び資質の向上を図る等、統計思想の普及啓蒙に尽力するとともに、統計の進歩発展に多大の功績を挙げた。
関 成一	(産業統計) 戦中戦後を通じて、20数年の長きにわたり調査統計業務に携わり、特に、戦中戦後の官庁統計空白の時に多くの困難を克服し、各種産業統計調査を企画実施し、我が国における統計再建活動に貢献した。また、官庁統計の重複の排除及び企業における統計報告の負担の軽減に尽力し、特に、統計報告調整法の効果的な施行に大きな役割を果たした。
奈良部 志保子	(通産統計) 27年の長きにわたり通産省において指数関係の業務に従事し、生産指数、在庫指数等鉱工業に関する各種指数の第一人者として、その開発、作成に多大の貢献をした。特に、現在、景気判断等において貴重な資料となっている生産予測指数の開発について、その全てに指導的役割を果たしたほか、季節変動調整方法の開発を行う等、諸指数の進歩、発展に多大の貢献をした。また、豊富な知識、経験を生かし、地方通産局、都道府県において、経済分析等に広く利用されている地域指数の作成、指導に尽力し、その功績も顕著である。

昭和 57 年度 (1982 年)

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に貢献した人

藤井 康	(厚生統計) 25年の長きにわたり厚生統計に従事し、その間、厚生統計のうち特に立ち遅れていた社会福祉統計の体系化と整備向上に大きく貢献するとともに、「地方別生活実態調査」を企画実施し、合理的な生活保護基準算定方式を開発するなど、厚生行政に寄与した功績は顕著である。
山下 不二男	(労働統計) 34年の長きにわたり労働統計に従事し、その間、各種統計調査の新設及び充実(労働経済動向調査の新設、毎月勤労統計調査の充実等)を図るとともに、労働関係について初めて産業連関表を作成するなど、労働統計体系の整備、質的向上に尽力し、今日の労働統計の基礎を築いた功績は顕著である。また、労働統計を駆使した労働経済分析を行い、国内・国外に向けて各種労働統計資料を編さんし、広く労働統計の活用及び普及に尽くした功績は大である。
大野 喜一郎	(地方統計) 29年の長きにわたり、神奈川県において地方統計業務に従事し、その間、指定統計の地方集計、大型小売店統計調査等、多くの県単独調査を企画・実施し、地方統計の整備に努めるとともに、全国で初めて統計調査員登録制度を企画実施し、地方統計制度の確立と充実発展に寄与した功績は顕著である。また、統計審議会の専門委員として、国と地方の意思の疎通を図り、我が国統計の発展に大きく寄与した。
荒井 欽二	(地方統計) 33年の長きにわたり、地方統計業務に従事し、その間、県地域産業構造調査等を企画実施するなど、新潟県の経済統計を系統的に整備し、人口移動分析システムを確立する等、地方統計の整備に寄与した功績は顕著である。また、その広範な学識経験を生かして、統計調査員の確保や市町村統計職員養成にも大きく寄与した。

3 多年統計の普及に努め我が国の統計の進歩に貢献した人

篠塚 拓造	30余年の長きにわたり、民間にあって農林統計の利用普及を図るため、見やすく廉価な統計書の作成、統計利用セミナーの企画実施、農林統計を親しみやすく編集した新農家暦を発行するなど、農林統計の利用普及に大きく貢献した。
-------	--

昭和 58 年度 (1983 年)

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に貢献した人

加藤 隆之助	35年の長期にわたり、通産統計行政及び統計実務に従事し、その間、石炭統計、コークス統計等の調査を企画・立案し、資源統計の基礎を確立するとともに、調査、環境の変化に対応し、メール調査、調査票のOCR化などの調査方法等の改善・研究に努め、統計の体系化、制度の向上に尽くした。また、昭和23年以降に公表された各種通産統計を時系列で編集するなど、データ基盤の整備を推進し、通産統計の発展に大きく寄与した。
齋藤 聰	統計行政及び統計実務に長期にわたって従事し、その間、生計分析調査を企画実施し、都民の生計に関する情報を提供するとともに、行政運営の指針となるべき社会指標の作成、産業構造に関する計量的研究等を行うなど、統計制度の改善及び統計の充実、発展に寄与した。また、都道府県の立場から見た統計調査の問題点を明らかにし、論文・提言等を通じて国の統計調査の改善に反映させた。
内藤 喬夫	26年の長期にわたり、民間にあって、一貫して調査統計業務に携わり、特に生産動態統計調査、製造工業生産予測調査など、官公庁の統計調査に対する責任者として報告類を取りまとめるとともに、機械受注統計調査の数次の改訂にも参画し、改善意見を提出し、官庁統計の向上に尽力した。また、業界にあっては自主統計の実施に参画し、業界統計の調整を行い、簡素・合理化など民間団体の自主統計の進歩発展に貢献した。
田路 健一	日本銀行等において、永年統計実務に従事し、卸売物価統計の整備・拡充に努め、今日の指数体系の基礎を築いたほか、国民経済計算の創成期における検討への参画、国際機関における各国経済統計の作成、研究等を通じ、統計の進歩に貢献した。

3 多年統計の普及に努め我が国の統計の進歩に貢献した人

渡邊 恒光	32年の長期にわたり、統計行政及び統計実務に従事し、その間、統計調査の効率的実施と統計精度の向上に努めるとともに、統計教育指定校制度の確立に努め、統計教育の充実強化に尽くした。また、統計映画を制作し、統計の普及に尽力するとともに、埼玉県統計協会の基礎を築き、地方統計の充実発展に寄与した。
-------	--

昭和 59 年度 (1984 年)

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に貢献した人

田澤 準一郎	23年の長期にわたり、労働統計行政に従事し、その間、毎月勤労統計調査を始め各種労働統計調査の整備拡充に尽くすとともに、「労働費用統計」及び「労働災害統計」などの新分野を切り開くなど、今日の我が国の労働統計の発展に貢献した。また、ILO等における国際労働統計基準の作成に寄与した。
前田 行雄	31年の長期にわたり、厚生統計行政に従事し、その間、厚生統計調査の企画、調査精度の向上等に尽力し、保健衛生基礎調査を始めとして、厚生省が実施したほとんどの標本調査の設計、分析を行い、標本調査理論に基づいた調査方法の体系を確立した。また、統計実務の教材を作成するほか、「改訂厚生統計ハンドブック」を執筆、監修し厚生統計の普及に努め、各種統計の整備・改善に尽力した。
黒瀧 龍治	18年余の長期にわたって統計実務に従事し、青森県に統計調査員登録制度を定着させるとともに、統計教育指定校制度を定着させ、統計教育の向上に尽力した。また、市町村における経済開発計画の指標として、市町村所得統計推計の普及に努めるとともに、青森県福祉指標の作成など統計の利用に新分野を拓いた。
福田 幸治	35年の長期にわたり、農産物生産費調査の調査客体として協力し、記帳を通じて得た知識から農業経営改善の必要性を説き、簿記記帳農家の育成を図り、統計調査に対する協力体制を確立したほか、農畜産物生産費調査の調査様式等の改善に協力し、統計の啓蒙普及に貢献した。

3 多年統計の普及に努め我が国の統計の進歩に貢献した人

佐竹 清一郎	25年の長期にわたり統計実務に従事し、統計の表現技術である図表を通じ、統計の普及に尽力した。特に、統計教育指定校に対する図表の実技指導や市町村に対する図表を活用した各種要覧、統計表の編集指導など、分かりやすい統計の普及に優れた功績を残した。
--------	--

昭和 60 年度 (1985 年)

2 多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に貢献した人

中村 文子	28年の長期にわたり、厚生省において一貫して国民医療費の推計に携わり、その間、国民医療費の推計方法を確立するとともに、年齢階級・傷病大分類別一般診療費等、新しい角度からの推計、国民医療費の増加要因の分析に尽くした。また、「国民総医療費の推移」、「医療費統計の使い方」等、多数の論文、著書を発表し、国民医療費の紹介啓発に努めるなど、厚生統計の普及に貢献した。
稲山 正	32年の長期にわたり、鋼材倶楽部において鉄鋼統計に従事し、その間、「鉄鋼需要関連指標」、「鉄鋼分析用産業連関表」の作成に尽力するとともに、鉄鋼需給に関する内外の資料を体系的に分類整理した「鉄鋼需要関連資料記事索引」を刊行したほか、「鉄鋼需給月報」の改善に努める等、鉄鋼業界における各種統計の体系化の推進に寄与した。
内堀 光正	24年の長期にわたり、国鉄の営業部門において旅客需要の実証分析、予測等に統計的手法の活用方法を確立し、輸送改善、運賃改定等に関する意思決定の科学的判断資料を提供するなど、国鉄の営業施策に大きく寄与した。また、部内に対して、講義、雑誌等を通じて、統計的な見方、考え方の浸透に尽力したほか、「需要予測モデルの作成システム」、「地方都市圏と国鉄旅客輸送」など、数多くの論文を発表して、統計思想の普及に貢献した。
佐橋 政男	24年の長期にわたり、日産自動車株式会社において、官庁統計報告の実質的取りまとめ責任者として、また、東京通商産業局、神奈川県等の統計調査員として長期間、統計調査活動に従事したほか、経団連、自動車工業会の統計制度委員会等において、調査内容の改善の提言、新たな統計資料の作成等を行うなど、自動車関係官庁統計、業界統計の改善、充実に尽力した。
阿部 正信	26年の長期にわたり、徳島県において統計行政に従事し、その間、全国に先駆けて行政資料室の開設に努め、統計資料の利用の促進を図るとともに、複雑多様化する統計需要に対応するため、各種の統計資料を網羅した「統計台帳」を立案、刊行し統計の整備に尽くした。また、徳島県統計教育研究協議会を発足させるとともに、統計教育研究指定校に対する補助制度を創設するなど、統計教育の充実に努め、統計思想の啓蒙普及に寄与した。

昭和 61 年度 (1986 年)

1 多年統計実務に関与し、著書、論文等によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

鮫島 龍行	37 年の長期にわたり、総理府において統計行政に従事し、その間、国勢調査、家計調査等多くの統計調査に携わり、その整備、充実に努めるとともに、「日本統計発達史」、「統計日本経済」等の著書を通じて統計学理の進歩に貢献したほか、多数の著書、論文を発表して、統計の普及、発展に寄与した。また、退職後においても、(財)日本統計協会理事として、雑誌「統計」の編集、刊行、論文の発表等を通じて、統計知識の普及に貢献した。
-------	---

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

森口 博夫	26 年の長期にわたり、(株)神戸製鋼所において調査統計業務に従事し、その間、鉄鋼、アルミニウム等各業界の統計作成、報告、解析等に努めるとともに、各種民間機関での講義、講演、「経営における予測計算技術」、「鉄鋼統計右往左往」等多数の著書、論文の発表を通じて、統計思想の普及に貢献した。また、関税協力理事会(CCC)、経済協力開発機構(OECD)に政府代表顧問として討論に参加したほか、国際鉄鋼協会(IISI)統計委員会委員として主要先進鉄鋼国の鉄鋼統計間の整合性向上に努めるなど、国際的統計の向上に尽力した。
田原 昭四	16 年にわたり、経済企画庁において統計行政に従事し、その間、国民経済計算体系を国連のガイドラインに適合した新国民経済計算体系へ世界で最初に完全移行させるとともに、初めて県民所得統計年報を発表したほか、景気動向指数の改訂、地域景気動向指数の開発、作成を行うなど、統計の向上と普及に貢献した。また、退職後も地域経済計算研究会の委員として、地域経済計算の整備拡充に尽力している。
山ノ上 要一	22 年間の長期にわたり、東京都において統計行政に従事し、その間、国勢調査等多数の国の統計調査に携わり、その円滑な実施に努めるとともに、東京都農林水産業調査、東京都流出入人口実態調査等を企画、実施するなど地方統計の充実・向上に寄与した。また、「東京の商業集積地域」等の統計資料の提供、「とうきょう 365 日—数字で見た東京—」の刊行等を通じて統計思想の普及啓蒙に貢献した。
雑賀 晋	30 年の長期にわたり、岡山県において統計行政に従事し、その間、全国に先駆けて県産業連関表及び県福祉指標を作成するとともに、電算システムの導入による集計事務の正確性と迅速性の確保に尽力したほか、推計による将来値を設定する指標を完成し、県勢発展の基本計画となる総合福祉計画等の策定に寄与した。また、都道府県情報管理主管課長会会長として、統計の電算処理上の諸問題を提言する等、国と地方との電算処理の調整に貢献した。

昭和 62 年度 (1987 年)

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

小林 昭二	厚生省において、34 年の長期にわたり厚生統計業務に従事し、特に厚生統計の創設期には製表業務の集中化及び整備向上に努めるとともに、各種統計について総合的解析を行い、「社会調査統計」、「統計からみた児童の福祉」等数多くの文献を執筆するなど、厚生統計の普及発展に貢献した。また、世界保健機構(WHO)による国際疾病分類(ICD)の第 9 回修正に際して、我が国における修正意見の取りまとめに尽力したほか、世界人口年に国際的規模で実施された「世界出生力調査」について、我が国を代表してアジア地域・ヨーロッパ地域会議に出席するとともに、日米衛生統計会議に日本側代表として出席するなど、国際協力に貢献した。現在は、(財)厚生統計協会事務局局長として、新規刊行物の企画、地方公共団体や民間へのデータ提供の促進等を通じ、厚生統計の普及と発展に貢献している。
久米 益雄	30 年の長期にわたり、労働省において統計行政に従事し、その間、労働統計調査体系の構築に尽力、特に賃金に関する各種統計調査の整備、充実及び質的向上に携わり、今日の賃金構造基本統計調査、屋外労働者職種別賃金調査等の基礎を作り、これを充実、発展させた。また、長年にわたり、「賃金統計教室」、「労働生産性の国際比較」等労働統計、賃金統計及び関連統計を駆使した多数の著書、論文等の発表を通じて、統計の活用と普及に貢献するとともに、統計研修所、労働研修所、各地の労働大学、セミナー等において労働統計、賃金統計等を講義し、広範な人々の統計知識向上に貢献した。
高津 順吉	農林水産省において、34 年余の長期にわたり、一貫して統計調査の企画、設計等に参画し、統計理論の調査実務への適用を通じて、農林水産統計調査における標本調査体系の確立と、その改善、効率化に貢献した。また、多年にわたり、農林水産関係調査担当職員に対する統計理論の研修指導コンサルテーション等の実施、発展途上国政府職員に対する同様研修の実施等、後進の指導・国際協力に寄与した。さらに、統計審議会の調査技術開発部会検討委員会のメンバー及び統計情報部の各種統計調査の改善検討委員会の委員として、統計調査の改善効率化に尽力するとともに、農林水産統計情報システム化推進検討委員会のプロジェクトチームの主査として、現在実施中の「農林水産統計情報システム整備事業」の基本構想の策定に尽力した。
名阪 健二	滋賀県において、37 年余の長期にわたり統計行政に従事し、その間、豊富な知識と経験を活かし、各種統計調査の円滑な推進を図るとともに、市町村の統計職員の養成に努めるなど統計の普及に尽力した。また、滋賀県で初めて県民所得推計の導入、産業連関表の作成、工業メッシュ統計の整備など統計加工分析業務を手掛け、行政施策支援のための各種統計の拡充整備に寄与するとともに、「県統計情報データベース・オンラインシステム」を構築し、新しい統計情報提供体制の確立に貢献した。さらに、統計教育の重要性にも着目し、統計教育推進事業助成制度を創設するなど、統計思想の普及啓蒙に尽くした。

安達 英夫	㈱荏原製作所に在籍中 32 年の長期にわたり、機械工業全般にわたる調査統計業務に従事し、官公庁、機械業界の統計の作成、整備、解析、啓蒙等に貢献した。特に経済企画庁等の行政機関並びに(社)日本機械工業連合会、(社)日本産業機械工業会及び(社)日本冷凍空調工業会における統計関係諸委員会において、常に中心的、指導的役割を果たすとともに、機械関係諸団体における多数の定期調査統計についての調査結果の取りまとめ、機械工業需要構造分析調査等の企画立案等、機械業界の自主統計の進歩発展に貢献した。
-------	--

昭和 63 年度 (1988 年)

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

山崎 茂	農林省及びアジア経済研究所の統計担当部署に、通算 35 年余にわたり在職している。農林省在任中(昭和 29 年～40 年)は、農業センサス、農業動態統計の企画、取りまとめ及び産業連関表農林水産部門の推計に従事し、これらの統計の整備・充実に貢献した。アジア経済研究所においては、発展途上国統計資料の収集・整備・評価、特に貿易統計データベースの構築に貢献した。また、昭和 48 年以降、同所の統計部長として、アジア諸国の統計機関との共同作業を組織化、指導し、これを通じて我が国の統計手法の技術協力を行い、これらの国における産業連関表作成の基礎を構築した。さらに、1975 年アジア国際産業連関表作成プロジェクトを各国と共同して推進し、1975 年アセアン国際産業連関表を完成させた。このような各国との共同プロジェクトを通じて、我が国の統計の国際化に先駆的役割を果たした。
大川 ふさ	静岡県清水市において、27 年間にわたり工業統計調査、労働力調査、商業統計調査等各種の統計調査に従事している。調査に当たっては、強い責任感と努力で従事し、調査対象の信頼を得るとともに、他の調査員の模範となる活動を続けている。昭和 45 年、県下に先駆けて清水市民間統計調査員協力会(会員数 113 名、全員女性)を設立、初代会長として、14 年間にわたり会員の指導、資質の向上に努め、会の運営を図った。以後、県下に 18 の協力会が設立されており、統計調査員確保対策の充実、及び統計の進歩発展に多大の功績を挙げた。
西村 喜代司	北海道において、40 年余の長期にわたり統計行政に従事している。その間、(1)市町村統計調査員協議会の設置、(2)北海道統計調査条例の制定に参画、(3)市町村統計職員の指導・育成、(4)統計図表の普及、(5)地方統計資料の整備(例:「北海道百年の歩み」昭和 60 年 12 月発刊)等、戦後の草創期から一貫して今日に至るまで、統計事務の各般にわたる分野で活躍し、地方統計の整備向上に貢献した。
廣瀬 元孝	40 年余にわたり気象庁において、気象予測の研究に従事した。その間、(1)気象分布や気圧配置の変動に、主成分分析を始めとする多変量解析法を適用して、その予測手法を開発、(2)大気汚染、放射性物質が放出された場合の局地気象を予測するシステムの開発に際し、多変量解析法を適用することにより、広範囲の気象状況を解析して適切に処理する方法を開発した。また、(3)原子力発電所等において、万一放射性物質が大気中に放出された場合の防災対策の一環として、緊急時環境線量予測システムのうち、放射性物質の移流拡散にかかわる局地気象予測モデルを開発した。このように、気象観測値に対し多変量解析法を適用した研究開発では、先駆者とされている。

3 多年統計の普及に努め、我が国の統計の進歩に貢献した人

今井 市郎	郵政省において、37 年の長期にわたり統計手法の基礎的研究及び各手法の指導・普及を行うなど、郵政行政における統計手法の高度な活用に寄与した。特に、郵便物数の需要分析・予測、労働集約型事業における要員の効率的配置、また経営分析・原価計算など、社会経済の変化に対応した経営管理手法の研究及びその指導・普及に貢献した。また、「経営管理のための統計入門」、「軍艦図表の作り方・使い方」等、多数の著書や論文を発表して、統計の実践的な利活用の推進、統計思想の普及に尽力したほか、統計グラフの描き方の技法等を郵政省内に普及発展させ、今日の郵政省における統計グラフ隆盛の礎を築くなど、統計思想の普及に貢献した。
-------	---

平成元年度 (1989 年)

1 多年統計実務に関与し、著書、論文等によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

野田 孜	経済企画庁において、15 年にわたり国民所得統計の基礎的研究及び各手法の指導、普及を行うなど、経済統計の整備に関して寄与した。特に、国連で開発された国民所得勘定を中心に産業連関表、資金循環表、国民貸借対照表及び国際収支表を体系的に統合した新 SNA の我が国の適用に当たっては、我が国の既存統計との接手法等の研究に貢献した。さらに、岡山大学等において、17 年にわたり経済理論の実証分析に多大の成果を上げるとともに、講義や著作を通じ統計知識の向上に貢献した。
------	---

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

上村 一夫	WHO 創設期より 30 年余にわたり、WHO 職員として世界の保健統計の分野で指導的役割を果たしている。①WHO 本部及び日本における ICD(国際疾病分類)改訂作業の中心的指導者、②世界各国における保健統計指標の開発・整備に貢献、各国間の保健・衛生統計情報の交流にも尽力、③WHO での活動を日本に紹介し、日本の人口動態統計、衛生統計を WHO の活動の中に取り入れるのに努力、④活発な研究活動を通じて、日本の人口・衛生統計の分野における研究に大きな影響を与えるなど、厚生統計の向上に果たした功績は大きい。
-------	---

野村 進	アルミニウム業界団体において、25年間にわたり一貫して調査統計の業務に従事している。その間、鋳工業統計協力委員会委員、経団連の統計制度委員会報告調整専門委員会委員として、官庁統計の整備改善に協力するとともに、軽金属協会、日本アルミニウム連盟の理事として、我が国のアルミニウム業界統計の整備改善と精度向上に尽力した。また、軽金属工業統計月報、年報等の編集責任者として、また、業界機関紙に多くの寄稿を行い、アルミニウム統計の普及宣伝に努力した。さらに、欧米アルミニウム業界団体との交流を積極的に推進し、アルミニウム海外統計の調査、交流を実施して、これを定期化するなど我が国のアルミニウム業界統計の発展に貢献した。
関 英二	農林水産省において、30年余にわたり統計行政に従事している。その間、農林業センサスの企画設計、分析等に中核的役割を果たす等、農林水産統計調査の企画設計、調査研究等に多大の貢献をした。また、農林統計の利用方法を平易に解説した「センサスの経済学」、「農林統計の見方、使い方」の著書、その他農林統計に関する多くの論文を発表するなど、農林水産統計の普及指導に尽力した。

3 多年統計の普及に努め、我が国の統計の進歩に貢献した人

森田 幸雄	岐阜県において、22年余にわたり統計を加工、分析した数値を駆使用する企画統計行政に従事した。その間、「県単統計の見直しに関する研究報告書」、「統計調査の研究結果」、「数字から見た岐阜県の姿」、「数字の読み方と課題 100 題」など、統計を活用した行政施策支援のための研究レポートを次々と発表し、統計環境の整備、充実に多大の功績を上げるとともに、全国に先駆けて、国勢調査電算集計審査業務の開発導入、岐阜県初の県産業連関表の作成、統計データベースシステム開発を主宰するなど、常に中心的、指導的役割を果たし、新しい統計情報提供体制を確立、地方統計の普及発展に貢献した。
-------	---

平成 2 年度 (1990 年)

1 多年統計実務に関与し、著書、論文等によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

安西 定	昭和 33 年以降、国及び地方における衛生行政に従事し、49 年には厚生省大臣官房統計調査部衛生統計課長として、我が国の保健統計の改善に多大の貢献をした。昭和 56 年東北地方医務局長を最後に退官し、同年、昭和大学医学部公衆衛生教授として現在に至っている。同氏は、死因統計の疫学分野への応用拡充に努め、全国市町村別主要疾患死亡率の分布図を作成した。これは、がん、脳卒中など主要な疾患について、市町村別死亡分布図を我が国で初めて作成したもので、この結果は、市町村の公衆衛生の向上に役立つのみならず、疫学的にも、且つ地理医学の分野においても高く評価されるものである。また、同氏は、保健統計の行政分野への利活用に尽力し、行政施策の評価や地域医療計画と情報システムの確立に早くから取り組み、現在でも行政における各種研究を始め、審議会委員として活躍している。
------	--

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

飯島 東助	我が国の基礎産業の一つである伸銅業界団体において、昭和 29 年以降 35 年余にわたり、一貫して調査統計の実務に従事している。その間、伸銅月報、旬報、年報の事実上の発行責任者を務め、伸銅品の労働生産性、操業率、季節指数、需要予測等に関する論文・解説文・統計を掲載し、諸統計の普及並びに整備、改善に貢献した。また、経団連の統計制度委員会の委員として、主要商品価格の国際比較に関する調査等に関与し、民間産業統計の整備に協力するとともに、日本標準商品分類の非鉄金属関係委員として、商品分類の充実に尽力するなど官庁統計の整備にも貢献した。さらに、国際的には実務責任者として、国際銅加工業者協議会との情報交換、連携確保に尽力した。
五十嵐 利也	旭川市において、昭和 22 年以降 43 年間にわたり、統計調査員として各種統計調査に計 107 回従事している。また、統計調査活動を通じて住民に対する統計思想の普及発展に努めている。この間、昭和 22 年、混乱期の旭川市において調査の組織化を図るため、同人が中心となり、全国に先駆けて統計調査員の常任制度を取り入れた。また、調査員の資質向上と相互の親睦を図る目的で、昭和 22 年に旭川市統計協議会の発足に尽力、その後、同会長として調査員の指導育成に力を注ぎ、現在では北海道統計協議会連合会会長として幅広く活動している。さらに、統計調査員として従事した長い経験を生かし、毎年、道内各市の研修会の講師として統計の重要性を説きながら調査員の指導、育成に努めている。
永野 不二朗	労働省において、昭和 23 年以降 54 年までの通算 30 年余にわたり、労働統計行政に従事した。この間、草創期にあった雇用、賃金などの各種統計調査に携わり、「毎月勤労統計調査」の創設・拡充、「賃金構造基本統計調査」の創設に参画し、また、「給与構成調査」と「労働時間制度調査」を統合して「賃金労働時間制度総合調査」として実施するなど、今日の労働統計の充実に寄与している。また、アジア統計家会議、ILO 国際労働統計家会議に出席し、人口労働統計など国際的統計基準の作成に寄与するとともに、昭和 54 年 4 月労働省退職後は、国際協力事業団の要請により、フィリピン労働雇用省顧問として、同国の統計体系の開発、整備並びに統計専門家の育成に当たるなど、我が国統計の国際化にも多大な貢献をしている。

真部 忠	愛知県において、昭和 28 年以降平成元年までの間、通算 28 年余にわたり統計行政に従事し、この間、産業連関表、県・市町村所得推計の開始・拡大など、統計の加工分析の発展に尽力するとともに、全国に誇れる年齢別人口の調査・推計方式を「愛知県人口動向調査」として企画・開始するなど、県単独統計調査の創設に尽力した。また、昭和 55 年国勢調査の実施に当たっては、プライバシー意識の高まりなど厳しい状況の中、直接責任者として円滑な実施に努力した。さらに、「あ、いちばん」を始めとする新しい感覚を盛り込んだ各種統計刊行物の発行に力を注ぐ等、県民への統計及び統計思想の普及に貢献するなど、愛知県における統計の発展に業績を上げた。一方、統計行政在職中、一貫して愛知県自治研修所を始め、各種研修施設で統計に関する講義を行い、後進の指導に熱意を示した。
------	--

平成 3 年度 (1991 年)

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

児島 俊弘	昭和 23 年以降 54 年までの 31 年間、農林省統計調査局及び農業総合研究所において、一貫して統計の定義、分類等の基礎分野、理論的枠組み、統計の利用開発、情報化社会に対応したシステム化、データベースの開発等の研究に携わり、今日の農林統計の改善、進展に多大な貢献をした。また、統計審議会の専門委員、農(林)業センサス研究会等の委員及び座長として長年活躍した。さらに、農林統計情報のネットワークシステム、データベースシステムの開発にも参画し、これらの開発過程で示した構想(RINES)は、現在の農林水産省の情報化政策の原点の一つとなっている。
田代 兼光	通商産業省において、昭和 23 年以降 59 年までの 36 年間にわたり、統計実務に従事し、その間、通商産業省が所掌する製造業、商業等の諸分類の体系の確立(日本標準産業分類、日本標準商品分類、国際統一商品分類等)に努めるとともに、新規統計の企画、立案に参画し、生産動態統計について実査を円滑化するための「実務マニュアル」を作成するなど、通商産業省所掌統計の基盤整備に多大な貢献をした。また、商業統計調査の早期公表、調査票の新たな設計、集計面での様々な工夫をするなど、同調査の実施と利用の拡大、高度化を図った。
小池 淳夫	昭和 23 年から 47 年までの 24 年間、厚生省大臣官房統計調査部において、各種厚生統計調査の標本設計及び誤差計算等、調査結果に関して多大な貢献をした。また、長く生命表作成の業務を担当し、生命表の精度向上、新たな観点からの指標の開発、生命表作成の地方公共団体への普及等に多大な貢献をした。特に、同氏が生命表の作成の際、計算誤差を生じさせないようにするため、係数の値を全て分数で表示できるように改良した結果は、現在も使用されている。
古寺 雅美	東京都において、昭和 31 年以降平成 3 年までの間、通算 23 年余にわたり統計実務に従事し、この間、事前届出等の総合調整を通じて、東京都の各種統計事業の体系化を図り、調査対象の負担軽減、データ利用の高度化に努めるとともに、東京都統計調査条例を改正し、調査対象の秘密保護体制を確立させるなど、統計調査制度の整備に多大な貢献をした。また、社会指標に初めて人間の満足度の要素を取り込み、社会、経済、文化など各分野にわたる都民生活の総合水準を把握する指標作成に取り組んだ。さらに、東京都で初めての産業連関表の作成にも当たった。

3 多年統計の普及に努め、我が国の統計の進歩に貢献した人

森 嵩	昭和 42 年、(財)矢野恒太記念会に入社以降、現在に至るまで 24 年間にわたり、一貫して「日本国勢図会」など 6 点の統計書編集、刊行事業を通して、統計の普及に多大な貢献をした。同記念会刊行のこれらの統計書は、一般社会への統計思想を普及するとともに、学校教育において信頼性の高いデータ集として採用されており、日本図書館協会選定図書に認定されている。同氏は、これらの図書の正確性の向上と内容の改善に努力した。また、「数字で見る日本の 100 年」、「世界国勢図会」、「データで見る県勢」を企画・編集したこと等を通じて、統計利用層の拡大に貢献した。
-----	--

平成 4 年度 (1992 年)

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

中沢 牧生	労働省において、昭和 26 年以降 58 年までの間、通算 29 年余にわたり統計実務に従事し、コンピュータ導入等集計業務の近代化を始めとし、標本調査の導入等、各種統計調査の整備、拡充、改善の企画、指導に尽くし、労働統計の発展に貢献した。特に、「職種別等賃金調査」においては、標本調査理論と実践による体系づけを行い、今日の「賃金構造基本統計調査」の基礎を確立した。
安次富 宏	昭和 26 年から平成元年までの 34 年間、沖縄県において統計実務に従事し、この間、沖縄県の本土復帰に伴う統計職員の身分移管、業務体制の確立等に関わり、統計制度・業務の円滑な移行に尽力した。また、復帰後は、指定統計の円滑な実施や県民所得、市町村民所得、産業連関表等の加工統計の充実整備に努めるとともに、民間団体、事業所等に対する統計思想の普及啓発に多大の貢献をした。
澤野 四郎	広島県において、昭和 32 年から平成 3 年までの通算 33 年間にわたり統計実務に従事し、この間、特に産業連関表の作成、分析を全国に先駆けて開始し、地域経済統計の確立に努めるとともに、全国の県民所得推計業務の発展に多大の貢献をした。また、各種統計調査業務の効率化と精度向上に努め、さらに統計資料の充実・提供など、統計普及の推進に尽くした。

栗原 昭典	昭和 38 年以降平成 3 年までの 28 年間、アルミニウム業界団体において統計実務に従事し、アルミニウム業界の自主統計の創設、実施及び普及に尽力するとともに、統計報告の迅速化等にも多大の貢献をした。また、通商産業省所掌の指定統計及び日本標準商品分類の改正に尽力するとともに、国際統一商品分類と生産動態統計との品目リンケージについての調査を通じて、統計の国際化に貢献した。
山口 九郎	岩手県において、昭和 35 年国勢調査員として任命されて以来、現在まで 32 年間、延べ 137 回にわたり各種の統計調査に従事し、他の模範となる統計調査・普及活動に尽力した。この間、昭和 50 年に盛岡市統計調査員協議会を設立したほか、岩手県統計調査員協議会連合会、北海道・東北地区統計調査員協議会の会長等役員として、統計調査員の資質向上と組織活動の発展に多大の貢献をした。

平成 5 年度 (1993 年)

1 多年統計実務に関与し、著書、論文等によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

石田 定夫	日本銀行において、昭和 31 年以降通算 21 年にわたり、一貫して資金循環勘定の作成・分析・研究に携わった。その間、昭和 33 年に公表を開始した資金循環勘定の作成に大きく貢献するとともに、その後、引き続き資金勘定の見直しや分析手法の改善に尽力した。また、多数の著書・論文により、資金循環勘定の見方や経済分析方法等の一般への普及に貢献した。
-------	---

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

楠田 義	昭和 22 年から 28 年間にわたり経済安定本部・経済企画庁に勤務し、国民経済計算の発展に寄与した。特に、産業連関表におけるサービスや間接費(本社費)の推計方法の確立、産業別粗資本ストック統計の開発・作成、さらには、現在でもベンチマーク・データとして利用されている昭和 45 年国富調査を主管課長として実施したほか、新 SNA への移行のための研究・開発に貢献した。
齊藤 泰仙	昭和 23 年から平成元年までの通算 40 年にわたり、通商産業省の統計業務に従事し、特に指数及び産業連関表の分野において顕著な貢献をした。指数関係では、鉱工業指数体系の整備、出荷内訳表の開発及び通商産業省独自の季節調整法 MITI 法 I の開発に、また、産業連関表関係では、延長産業連関表作成システムの開発と作成、公害分析用産業連関表の作成、地域産業連関表及び規模別産業連関表の開発等に寄与した。
山中 淳吉	昭和 23 年から 62 年まで、通算 36 年間にわたり、大阪府において統計業務に従事し、各種統計調査の実施、分析、統計の普及等に顕著な業績を挙げた。特に、統計の普及に関し、資料展示室、データフェアの開催、普及用冊子・ビデオの作成など、先駆的な事業を実施したほか、統計分析手法の開発、統計教育の振興等により、地域統計の充実に貢献した。また、退職後も大阪府統計協会事務局長として、統計の発展に尽力している。
小柳 敏男	昭和 30 年から現在まで 38 年間にわたり、統計調査員として、延べ 72 回に及ぶ各種統計調査に従事した。また、自らの調査員活動のほかに、昭和 29 年に、県下に先駆けて加茂市統計事務研究会(現加茂市統計協会)の設立に尽力し、副会長として統計調査員の確保、研修、相互の連絡調整等、統計調査員の指導育成と組織的活動の発展に多大の貢献をした。
菊田 一三	昭和 56 年から平成 5 年までの 12 年間、一貫して(社)日本貿易会において統計業務に従事した。その間、特に「商社輸出入成約統計」について、資料収集、統計表章の細分化、統計数値の精度向上等に努め、同統計を貿易活動の先行指標としての価値あるものにした。また、(社)通産統計協会において同統計の普及に努めたほか、(社)経団連統計制度委員会において、官庁統計の整備・改善に貢献した。

平成 6 年度 (1994 年)

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

澤井 章	昭和 34 年から 59 年まで 25 年間にわたり、経済企画庁及び厚生省において統計実務に従事した。その間、地域別福祉の特性を見るための福祉指標の検討、国民医療費の推計及び分析の推進、産業連関表の厚生省部門のデータ把握等に尽力した。また、昭和 59 年には、カリフォルニア大学テン・ロン・チャン教授が執筆した生命表に関する標準的教科書である「生命表とその応用」を邦訳した。
吉田 十五一	昭和 30 年から現在まで 39 年間の長期にわたり統計調査員として、国勢調査、工業統計調査、その他多くの統計調査に従事した。この間、自ら調査内容を熟知して、調査対象の完全な掌握と調査票の提出期限の厳守など、調査員として顕著な功績を残している。また、昭和 44 年から 62 年までは福井市統計協会の理事、52 年から 62 年までは副会長として、調査員の確保と資質向上のため活躍した。
大津 富士男	警察庁において、昭和 28 年から平成 6 年に退職するまでの間、通算 39 年間にわたり犯罪統計事務、交通統計事務に携わってきた。この間、昭和 45 年と 49 年の 2 回、犯罪統計に計上されない犯罪の暗数の実態調査の実施及び分析、犯罪統計原票入力時の誤入力を防止するためのシステムの考案・導入、管区警察学校において、犯罪統計担当者の養成、タイ国の交通事故統計業務の高度化等に貢献した。

中川 虎雄	昭和19年から現在まで50年間の長期にわたり、統計調査員として多くの統計調査に従事してきた。旺盛な向上心から常に研鑽に励み、正確且つ迅速な調査票の収集と処理に努めており、他の模範となっている。また、大野町統計協議会、みなみ北海道統計会議の設立、さらには北海道統計協議会連合会の組織拡大等に尽力するなど、調査員の組織化及び資質向上に努めた。平成6年からは、同連合会の会長として活躍している。
菊地 慎二	昭和45年以来現在まで通算24年間にわたり、日本百貨店協会において、百貨店売上高の調査統計及び分析業務に従事してきた。毎月2回、百貨店の売上動向を的確に分析・公表するなど、統計の利用拡大に貢献した。また、昭和53年には、通商産業省の「百貨店販売統計」の品目改正に協力し、平成5年からは、経団連統計制度委員会企画部会の委員として、官庁統計の整備改善に協力している。

4 統計の実務又は普及を通じて、我が国の統計の進歩に特に顕著な貢献をした人

猪野 美夫	昭和22年から54年まで通算12年間、千葉県において、統計実務及び統計の普及に従事した。特に、昭和47年から3年間は、統計課長として千葉県産業連関表、事業所統計のメッシュ統計の作成など、新しい分野の開拓に尽力、また、退職後も県自治専門学校、県生涯大学校等において、統計の講義を行うほか、雑誌「統計ちば」に「史実の中の統計」を31回にわたり執筆するなど、統計の普及に貢献している。
-------	---

平成7年度（1995年）

- 1 多年統計実務に関与し、著書、論文等によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人
 2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

市野 省三	昭和27年から60年まで23年間にわたり、労働省において統計実務に従事した。この間、毎月勤労統計調査の基礎を築き、労働経済の産業連関分析手法の導入等、労働統計の発展に貢献した。また、「雇用統計の見方」等、数多くの優れた著書、論文を発表し、労働統計の理解と普及に努めているほか、統計審議会専門委員等、各種委員会の委員等を努め、統計調査の普及・発展に貢献している。労働省退職後も、四日市大学教授として、統計学の講義に当たっている。
-------	---

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

紫村 次晴	昭和24年から56年までの通算32年間にわたり、農林水産省において統計実務に従事した。この間、農業基本調査の電子計算機を利用した効率的な集計システムの確立、「標本調査法の概念、方法及び理論」を作成して組織内研修の実施、農林水産省統計のデータベース化など、農林水産統計の発展に貢献した。また、在職中及び退職後もFAO、JICAの個別専門家として、我が国の農林水産統計調査の技術を広く海外に普及させた。
坂井 貞彦	昭和30年から56年までの26年間、名古屋市において統計実務に従事した。この間、名古屋市の長期計画等の策定のための将来人口推計の中心的な役割を果たしたほか、登録統計調査員制度の創設、国勢調査の国勢統計区による結果表章や地域メッシュ統計の作成、事業所統計調査等の学区別統計の作成等に貢献した。市退職後は、愛知淑徳大学において統計学等の講義を行っているほか、人口動向等の著書、論文を多数発表している。
河合 浩太郎	昭和23年から統計調査員として47年間にわたり、工業統計調査、商業統計調査、国勢調査等の統計調査に従事している。この間、強い責任感と努力で他の模範となる活動を続けている。また、昭和47年に島田市統計調査協力会を設立、以来、初代会長として現在まで23年間、他の調査員の援助指導を行うとともに、調査員相互の親睦を図り、調査員確保に協力するなど、統計行政の向上に多大の功績を挙げている。

- 2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人
 3 多年統計の普及に努め、我が国の統計の進歩に貢献した人

満島 章	昭和36年に経団連事務局に入局以来、平成3年まで通算22年間にわたって統計実務に従事した。この間、「民間統計調査資料一覧」、「中央官庁外国統計刊行物目録」等を作成・編集し、内外の統計調査の普及・相互利用に努めた。また、統計調査について実施官庁と民間企業との調整を図るなど、官庁統計の円滑な実施に貢献したほか、経団連統計制度委員会の責任者及び統計審議会専門委員として、官庁統計の整備改善に寄与した。
------	--

3 多年統計の普及に努め、我が国の統計の進歩に貢献した人

御供 正典	昭和25年から平成3年まで通算40年間にわたり、岡山県において統計実務に従事した。この間、「統計グラフの書き方」の発刊、グラフで見る県勢要覧「岡山のすがた」や、月2回地元紙に掲載している「統計からみた岡山の指標」の担当として、グラフ、イラストにより分かりやすい統計の紹介に努めるなど統計の普及、理解の拡大に努めている。さらに、退職後も統計普及相談員として統計の普及のために尽力している。
-------	---

平成 8 年度 (1996 年)

1 多年統計実務に関与し、著書、論文等によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

白石 昌嵩	昭和 34 年から 62 年まで、28 年間にわたって厚生省において統計業務に従事した。この間、昭和 40 年生命表の編纂に中心となって当たったほか、各種標本調査の企画、標本管理、誤差解析等、統計数理面での発展、人口動態統計の発展に貢献した。また、がん患者登録システムの整備充実に努め、集積された病歴を統計的に解析・公表し、我が国のがん研究の発展に多大の貢献をしたほか、年金数理人として厚生年金基金制度等の発展にも尽力した。
-------	--

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

泉川 光	昭和 35 年から 37 年間にわたり、統計調査員として国勢調査等各種の統計調査に従事してきた。この間、強い責任感と努力で正確、迅速な統計の作成に尽力した。さらに、統計調査員の組織化を通じて、その確保や資質の向上を図るため、矢吹町統計調査員協議会、西白河地方統計調査員協議会連合会、県統計調査員協議会連合会等の設立に努力し、これらの会長を務めるなど、統計調査員の中心的リーダーとして活躍している。
服部 竹男	昭和 37 年から通算 27 年間にわたって、埼玉県において地方統計業務に従事した。その間、県におけるコンピュータによる統計手法の確立の基礎を築き、埼玉県初の産業連関表の作成、市町村民所得の推計システムの確立、県民所得統計の推計方法の見直しによる精度の高い統計の構築等に貢献した。また、人口の将来予測についても、傾向曲線による方法等を駆使するなどにより、県の行政計画の策定に寄与した。
村田 眞道	茨城県において、昭和 16 年から通算約 19 年間にわたり統計業務に従事した。その間、戦後の政府における統計制度の改善発展のための活動に際し、地方側の中心人物の一人として活躍するとともに、県内の統計組織の急速な整備を図り、県単独での農業基本調査の実施、茨城県調査統計条例の制定など、地方統計の整備に努めた。また、県統計グラフコンクールの実施、統計調査員向けの機関紙「調査茨城」の創刊など統計の普及に努力した。
森田 稔	昭和 36 年から 35 年余にわたり、日通総合研究所において、運輸統計の利用・普及に係る研究活動を続けた。その間、運輸・流通統計関係の各種委員会の委員長あるいは委員として活躍し、輸送経費の変動と地域間輸送構造の関連分析手法の研究、内航船舶輸送統計の標本抽出方法の改善、各種統計調査の訪問・郵送併用制の採用など、その改善に貢献している。また、経済活動量と運輸活動量との関係を統計的に解析し、予測体系の確立に貢献した。

平成 9 年度 (1997 年)

1 多年統計実務に関与し、著書、論文等によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

高橋 智晴	昭和 25 年以来半世紀にわたり、運輸省において波浪観測と観測データの解析業務に従事し、我が国沿岸波浪統計の整備に尽力した。この間、定常的な波浪観測に耐え得る波高計の開発実用化などに従事するとともに、全国の波浪観測情報を集中的に処理解析するナウファス(全国港湾海洋波浪情報網)を創始し、その発展を通じて、初めて実測データをベースとした波浪統計解析を可能にした。
-------	--

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

近東 治	昭和 24 年から 13 年間にわたり、奈良県において地方統計業務に従事した。その間、奈良県事業所経済統計調査及び奈良県農業基本統計調査の設計、実施、奈良県産業連関表の作成等、地方統計の拡充に努めた。さらに、奈良県統計大会の充実、統計教育の振興等を図り、また、統計表、グラフ及び写真を駆使した統計書の刊行等、統計知識の普及、統計利用の促進に寄与した。
土井 成一	昭和 41 年から平成 3 年まで 26 年間にわたり、通商産業省において統計業務に従事した。この間、関東地域の鉱工業生産指数の作成、地域間産業連関表の作成等に貢献するとともに、環境分析産業連関表の研究の基礎を築いた。また、商業統計及び商業動態統計調査の早期公表、利用の拡大などを図るとともに、国際協力事業団の長期専門家としてインドネシアに派遣され、同国の産業連関表の作成に貢献した。
松井 彪二	昭和 30 年に統計調査員として任命されて以来、42 年間にわたって各種の統計調査に従事している。その間、国勢調査、工業統計調査、商業統計調査等各種の統計調査に当たっては正確、迅速な統計の作成に尽力するとともに、統計調査員団体の役員として、他の統計調査員の指導、援助を行うなど、統計調査員のリーダーとして、統計調査員の資質の向上、確保対策に貢献している。
東海林 泰三郎	昭和 30 年に統計調査員として任命されて以来、42 年間にわたって各種の統計調査員に従事している。この間、国勢調査、工業統計調査、商業統計調査等各種の統計調査に当たっては、正確迅速な調査に努めるとともに、統計調査員の組織化に努め、仙台市統計調査員協議会連合会、宮城県統計調査員協議会連合会、北海道東北地区統計調査員協議会連合会の各会長として、統計調査員の意識の高揚と相互の連携に貢献している。

平成 10 年度 (1998 年)

1 多年統計実務に関与し、著書、論文等によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

福富 和夫	昭和 46 年以來、28 年間にわたり国立公衆衛生院において統計実務に従事した。この間、「年齢調整死亡率」という概念の提起による死亡統計の改善、インフルエンザ・ウイルスの型を推定する解析手法の開発等、我が国保健統計の改善・強化に尽力した。さらに、発展途上国の簡略生命表の適正化に努めるなど国際的な貢献をした。
-------	--

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

3 多年統計の普及に努め、我が国の統計の進歩に貢献した人

戸田 弘元	昭和 36 年から 35 年余にわたり、日本鉄鋼連盟において統計実務に従事した。この間、鉄鋼関係官庁統計の整備、改善に尽力するとともに、鉄鋼関係各種統計を網羅した鉄鋼統計要覧の創刊に当たり、編集、作成に従事し、その基礎を築くなど、鉄鋼統計の整備発展に努めた。さらに、国際鉄鋼統計の整備、発展にも貢献した。
-------	--

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

高橋 市郎	昭和 25 年に統計調査員として任命されて以来、49 年間にわたって各種統計調査に従事している。この間、国勢調査、工業統計調査等、各種の統計調査に当たっては正確、迅速な統計の作成に尽力するとともに、統計調査員団体の役員として、他の統計調査員の指導、援助を行うなど、統計調査員の資質の向上、確保対策に貢献している。
弘田 澄夫	昭和 28 年以來、34 年間にわたって農林水産省において統計実務に従事した。この間、農業センサス等の統計調査の企画・設計に当たっては、その効率化に尽力するとともに、若年層統計職員の研修育成に努めた。さらに、農林水産省退職後、JICA プロジェクトの長期専門家としてパラグアイに派遣され、同国農業統計の発展に貢献している。

平成 11 年度 (1999 年)

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

菅野 忠典	昭和 39 年から平成 7 年まで 31 年間にわたり、厚生省において統計実務に従事した。この間、我が国独自の出生力に関する基礎資料の整備、保健所運営報告や老人訪問看護報告の企画、薬剤使用状況調査の創設等、厚生統計の発展に貢献した。また、統計審議会の調査技術開発部会、国民生活・社会統計部会等の委員としても活躍した。
山口 光司	昭和 35 年から現在まで 39 年間の長期にわたり統計調査員として、国勢調査、工業統計調査等多くの統計調査に従事した。この間、小川町統計学校協議会の設立、発展に寄与するとともに、小川町統計大会を企画し、25 回にわたる開催に尽力するほか、他の統計団体との研修・交流会を広域にわたり行い、調査員相互の情報交換と資質の向上に貢献した。
徳光 美紀子	山口県警察本部において、昭和 39 年から平成 11 年に退職するまでの間、通算 35 年間にわたり犯罪統計に従事した。この間、電算犯罪統計システムを構築し、他県のシステムの参考にされた。また、被害者の動向と犯罪の発生等、被害者に関する防犯視点からの分析、被疑者の動向等、捜査活動の視点からの分析など、犯罪統計資料の活用を努め、全国の犯罪統計の高度化に貢献した。

平成 12 年度 (2000 年)

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

3 多年統計の普及に努め、我が国の統計の進歩に貢献した人

田畑 紀年	昭和 44 年から平成 10 年まで、29 年間にわたり通商産業省において統計実務に従事した。この間、製造工業生産予測指数の開発、計量モデル・季節調整指数の改善等の統計解析手法開発に貢献するとともに、特定サービス産業の調査業種の拡充、企業活動基礎調査の実施による基礎資料の整備に尽力した。また、通商産業省編集の統計データの電子媒体による提供業務の責任者として、通産統計の普及発展に寄与するとともに、個人論文も数多く著し、官庁統計の整備・普及に貢献した。
-------	--

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

鎌形 健三	昭和 37 年から平成 3 年まで 29 年間にわたり、厚生省において統計実務に従事した。この間、現在の国民生活基礎調査等の始まりとなった厚生統計調査体系の見直し、生命表の作成方法の改善、国民医療費の財源別推計の作成に尽力した。また、医療保険医療費のデータを短期間で提供できるデータベースの作成に尽力するとともに、医療機関の種類別の医療費統計の新たな作成にも寄与し、官庁統計の整備に貢献した。
菅原 忠雄	昭和 25 年から今日まで 50 年間にわたり、統計調査員として国勢調査、全国消費実態調査等、各種の統計調査に従事し、献身的な努力で正確、迅速な統計の作成に尽力した。この間、昭和 47 年、大館市統計協議会を設立し、以来、会長として 28 年間、県内及び県外の他市町村の統計協議会との合同研修会を企画・実施し、調査員の資質向上を図ることに貢献した。また、県北部市町村を中心とした統計協議会の設立に寄与するなど、統計調査の円滑な実施のための組織作りに活躍している。

4 統計の実務又は普及を通じ、我が国の統計の進歩に顕著な貢献をした人又はグループ、団体等

団体名称： 茨城県教育研究会 統計教育研究部	昭和 37 年、県内公立小・中学校の教諭をもって組織された教育研究会統計教育研究部は、設立以来今日まで、統計グラフの作成指導を通じて、統計教育の振興及び統計思想の普及に貢献した。この間、茨城県統計グラフコンクールへの参加の推進、グラフ作成指導に活躍するとともに、作品の展示会の巡回実施に取り組むなど、小・中学校の児童・生徒への統計知識の普及・啓発に尽力している。このため、茨城県の統計グラフ全国コンクールへの応募点数は、過去 10 余年にわたり常に全国第 1 位という顕著な成果を挙げている。
------------------------------	--

平成 13 年度 (2001 年)

- 1 多年統計実務に関与し、著書、論文等によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人
- 2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

山室 眞二	昭和 37 年から 57 年までの 20 年間にわたり、建設省において統計実務に従事した。この間、未整備の状態にあった建設部門の生産額の推計及び投入調査の方法を確立し、産業連関表建設部門の作成、整備に貢献するとともに、建設工事の指数を作成するなどにより、建設デフレータの基本体系の整備に中心的役割を果たした。また、調査分析により、統計の精度向上に多大な貢献をした。
-------	--

- 2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

中村 豊子	昭和 31 年から平成 13 年までの 42 年間にわたり、愛知県において統計業務に従事し、現在のコンピュータによる電算集計の先駆けとなる統計処理の機械化と地方での公表の迅速化に尽力するとともに、新しく統計業務に従事した職員に対する研修・指導に当たり、職員の質の向上に貢献した。また、8 回の国勢調査に携わり、実務責任者としてその円滑な実施に多大な貢献をした。
門脇 市子	昭和 35 年から今日まで 41 年間にわたり、統計調査員として国勢調査、住宅統計調査、全国消費実態調査、商業統計調査、工業・石油統計調査、労働力調査等 176 回もの各種統計調査に従事し、正確かつ迅速な統計の作成に尽力した。また、昭和 37 年からは徳島市統計調査推進協議会の役員、平成 5 年からは会長として統計調査員の確保、資質向上に貢献している。
菅野 國太郎	昭和 25 年から今日まで 51 年間にわたり、石巻市において国勢調査、工業統計調査、商業統計調査、労働力調査、消費動向調査、小売物価統計調査など合計 288 回もの各種調査に従事し、同人の温厚・誠実な人柄と優れた統計知識により、円滑かつ正確な統計調査の実施に尽力した。また、長年にわたる統計調査の経験に基づき、他の統計調査員に対して適切な指導・助言を行うなど、その資質の向上にも寄与した。

平成 14 年度 (2002 年)

- 2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

板倉 玄宗	昭和 22 年から現在まで 55 年間にわたり、統計調査員として国勢調査、工業統計調査、商業統計調査など合計 120 回の統計調査に従事し、正確迅速な調査と統計調査の環境整備に尽力した。この間、浪江町統計調査員協議会の設立に尽力し、平成 6 年から現在まで会長として、統計調査員の組織作りと統計調査員の資質向上等に多大な貢献をした。
大澤 昭雄	昭和 25 年から現在まで 52 年間にわたり、統計調査員として国勢調査、農林業センサス、工業統計調査など合計 174 回の統計調査に従事し、正確迅速な調査に尽力した。また、調査に当たって、他の統計調査員への適切な助言・指導など多大な貢献をした。
佐藤 五十六	昭和 36 年から平成 13 年までの 40 年間にわたり、通商産業省において統計実務に従事した。この間、統計調査の機械集計化、鉱工業指数の基準改訂、季節調整法の開発等に貢献した。また、生産動態統計のデータベース化と統計データの民間提供、新世代統計システムの開発など、経済産業統計の整備充実にも大きな成果を挙げた。
村岡 徳人	昭和 35 年から平成元年までの 29 年間にわたり、農林水産省において統計実務に従事した。この間、農産物生産費調査、農業サービス事業体調査等、農林水産統計の整備、充実及びその効率化に寄与した。また、退官後は、国際協力事業団等を通じた国際的な活動により、パラグアイ共和国を始め、中国、タイ、ベトナム、ラオス等、各国の農業統計の整備、改善に多大な貢献をした。

平成 15 年度 (2003 年)

- 1 多年統計実務に関与し、著書、論文等によって、我が国の統計の進歩に直接貢献した人

松栄 達朗	多年、厚生省において、厚生統計、社会保険統計業務に従事した。この間、「人口動態事象の体系的整備に関する研究について」など、人口動態統計等に関する著作、論文により、厚生統計の進歩に貢献するとともに、健康・福祉関連サービス産業統計調査の企画、生命表の作成方法の改善などに尽力した。
-------	--

- 2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

鈴木 節子	多年、経済産業省において、統計業務に従事した。この間、工業統計、商業統計の調査・分析の充実に尽力し、多様な分析手法を駆使した報告を取りまとめるとともに、「我が国の工業」、「我が国の商業」など、平易で多岐にわたる刊行物の作成を中心的立場で行い、官庁統計の発展、普及、啓蒙に大きく貢献した。
-------	---

石飛 彥子	43年間にわたり統計調査員として、工業統計調査(39回)、商業統計調査(19回)、労働力調査(28年間、毎月)など、合計320回の統計調査に従事し、調査の目的、内容に精通して、調査票の精度向上に尽力した。また、出雲市統計調査員協議会の設立に尽力するほか、島根県統計調査員協議会連合会の理事として、統計調査員の組織作りに多大な貢献をした。
海野 君子	47年間にわたり、工業統計調査(47回)、商業統計調査(18回)、家計調査(36年間、毎月)など、合計249回の統計調査に従事し、正確で迅速な調査を実施し、他の統計調査員の模範となっている。また、長年の統計調査員活動により蓄積されたノウハウを生かし、他の統計調査員に対して調査の指導を行い、正確な統計業務の推進に寄与している。
平井 律子	31年間にわたり、調査環境の厳しい都市圏(東京都)において、家計調査(31年間、毎月)、単身世帯収支調査(8回)など難しい統計調査に従事し、的確かつ円滑な調査に尽力した。また、統計調査員としての長い活動歴を生かし、各種統計調査において指導的役割を果たしており、総務省統計研修所の特別専科「統計調査実務課程」の講師を務め、統計の発展と啓発に貢献した。

3 多年統計の普及に努め、我が国の統計の進歩に貢献した人

勝矢 重利	昭和30年に総理府統計局に入局以来、平成8年に退官するまで、一貫して統計図表という専門的な分野に従事し、統計グラフの普及、啓発、国勢調査のシンボルマークの作成を通じて、魅力ある統計の普及に努め、我が国の統計の進歩に貢献した。退官後も、総務省統計研修所や各種研修の講師として、統計グラフの重要性を説き、統計の普及に貢献している。
-------	---

平成16年度(2004年)

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

伊東 康光	57年間にわたり統計調査員として、国勢調査、事業所・企業統計調査、農林業センサス、工業統計調査など合計217回の統計調査に従事し、正確かつ迅速な調査と他の統計調査員に対する適切な助言、指導に尽力した。この間、水戸市統計協会において、昭和55年6月から現在まで理事、副会長を歴任し、地域における統計の普及、啓発及び統計調査員の育成、資質向上等に多大の貢献をした。
黒岩 美代	多年、建設省(現国土交通省)において統計業務に従事した。この間、建設統計の整備、充実に貢献した。特に、建設部門延長産業連関表を作成するとともに、未整備の状況にあった建設マクロモデルを開発し、また、建築物ストック統計の作成などに中心的役割を果たした。さらに、退官後は、(財)建設物価調査会において、建築物リフォーム・リニューアル受注調査の実施に尽力した。
相馬 勝衛	56年間にわたり、国勢調査(12回)、工業統計調査(50回)、商業統計調査(21回)など合計190回以上の統計調査に従事し、正確かつ迅速な統計の作成に尽力した。この間、弘前市統計研究会に所属し、昭和61年から平成4年まで、会長として統計調査員の指導、資質向上に貢献した。また、青森県統計協会の評議員、理事を歴任し、統計思想の普及にも多大な貢献をした。
平野 嘉子	32年間にわたり、小売物価統計調査(26年間、毎月)、消費動向調査(26年間)、毎月勤労統計調査(8年間、毎月)、国勢調査(3回)、事業所・企業統計調査(5回)など各種統計調査に従事し、適切かつ正確な調査と他の統計調査員の指導に尽力した。この間、平成10年に鳥取県統計調査員会を発足させ、現在まで会長として、統計調査員の確保、指導・育成など統計調査員の資質向上に貢献した。

3 多年統計の普及に努め、我が国の統計の進歩に貢献した人

梅寄 靖	多年、総務庁(現総務省)において、統計の総合調整業務に従事した。この間、統計調査の再編・整理計画(昭和59年1月)、統計行政の中・長期構想(昭和60年10月)の策定等に向け、各省調整、取りまとめに尽力した。また、退官後も、(財)全国統計協会連合会において、「学校教育の教科書における統計情報の利用実態調査」、「地方における統計情報の提供実態等に関する調査研究」等を取りまとめ、統計の普及に貢献した。
------	---

平成17年度(2005年)

1 著書、論文等によって、我が国の統計実務の進歩に直接貢献した人

3 多年統計の普及に努め、我が国の統計の進歩に貢献した人

大屋 祐雪	長年にわたり、政府統計(統計調査と統計制度)論の研究に専心し、統計学並びに統計行政の発展に大きく寄与するとともに、政府統計論を統計学界の主要な課題領域として確立させ、それによって学界と政府統計関係機関の交流並びに政府統計研究者の育成に大きく貢献した。また、統計職員研修会等の講師を数多く務めて、統計思想の普及について積極的な役割を果たした。
-------	--

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

佐藤 和子	41年間にわたり、工業統計調査(40回)、商業統計調査(19回)、家計調査(33回)、小売物価統計調査(32回)、毎月勤労統計調査(25回)、事業所・企業統計調査(11回)、労働力調査(13回)、国勢調査(8回)など、合計362回の統計調査に従事し、正確かつ迅速な統計の作成に尽力した。この間、昭和44年から平成元年まで21年間にわたり、山形市経済統計調査員協議会の会長として、統計調査員の組織化及び資質向上に貢献した。
-------	--

佐藤 勢津子	内閣府(旧経済企画庁)において、長年統計業務に従事し、日本の SNA 推計に関して、新しい概念の導入、推計に指導的役割を果たした。県民経済計算については、調査研究の結果を活用して推計方法を改善し、環境勘定業務については、「環境保護の供給表と利用表」、「日本版 SNA」の作成に携わり、サテライト勘定関係・その他では、専業主婦の家事等の無償労働の貨幣評価に関する研究を行い、SNA の生産概念の拡張等を行った。
西村 晴義	42 年間にわたり、工業統計調査(42 回)、商業統計調査(17 回)、事業所・企業統計調査(5 回)、労働力調査(10 回)、毎月勤労統計調査(9 回)、国勢調査(8 回)など、合計 195 回の統計調査に従事し、正確かつ迅速な統計の作成に尽力した。この間、平成 7 年から平成 12 年までの 5 年間、松本市統計調査員協議会の副会長として、統計調査員の指導、資質の向上に貢献した。

- 2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人
 3 多年統計の普及に努め、我が国の統計の進歩に貢献した人

藤本 豊治	広島県において、27 年間にわたり統計業務に従事し、この間、平成 12 年には、西日本では最初の県民経済計算四半期推計(QE)を作成、公表したほか、平成 8 年に経済企画庁に設置された地域経済計算研究会県民経済関係専門委員会の委員として、県民経済計算の精度向上に取り組み、県民経済計算の発展に貢献した。また、被爆 50 年記念事業として企画された、統計でみる広島県戦後 50 年のあゆみを平成 10 年に刊行し、統計の普及、利用に貢献した。
-------	--

平成 18 年度 (2006 年)

- 1 著書、論文等によって、我が国の統計実務の進歩に直接貢献した人

広津 千尋	多年、産業界における品質管理、新医薬品に係る臨床試験など、多方面にわたる統計的手法の研究に従事し、数多くの著書、論文等を著すとともに、その研究成果の提供・普及、及び実務指導に尽力し、統計的品質管理並びに統計的新薬審査の改善・発展を通じ、統計実務の進歩に多大な貢献をした。
-------	---

- 2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

加藤 里代	42年間にわたり、工業統計調査(39回)、商業統計調査(18回)、事業所・企業統計調査(12回)、国勢調査(5回)など、合計162回の統計調査に従事し、確実な調査の実施と他の統計調査員の指導に尽力した。この間、昭和45年の設立時から清水市民間統計調査員協力会の副会長として、昭和59年から18年間は会長として、統計調査員の組織化、資質の向上に多大な貢献をした。
坂井 正男	50年間にわたり、工業統計調査(50回)、商業統計調査(19回)、事業所・企業統計調査(17回)、毎月勤労統計調査(11回)、国勢調査(7回)など、合計181回の統計調査に従事し、統計調査の円滑な実施と統計の正確性の確保に尽力した。また、昭和54年の富山市統計調査員連絡協議会の立上げに中心的役割を果たし、平成5年から現在に至るまで会長として、統計調査員の組織化と資質向上に多大な貢献をした。

- 2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人
 3 多年統計の普及に努め、我が国の統計の進歩に貢献した人

神宮司 一誠	40 年間にわたり、農林水産省において農林水産統計業務に従事し、この間、生産統計調査の専門家として、耕地面積調査の母集団情報整備手法の改善・普及、アメダスデータの有効活用による作況調査、被害調査の効率化及び精度向上に尽力した。また、調査の効率的実施や調査精度の向上に関する研究成果の普及に努め、農林水産統計の改善に大きく貢献した。
--------	---

- 4 統計の実務又は普及を通じ、我が国の統計の進歩に顕著な貢献をした人又は団体等

団体名称： 法政大学日本統計 研究所	1976 年以降 30 年にわたり、統計制度を中心に統計体系・部門統計、統計調査環境、ジェンダー統計、SNA・産業連関、政府統計の二次利用、国際労働力移動等について研究活動を展開するとともに、その成果を踏まえ、研修会の講師派遣、開催、企画の支援等、統計の普及、啓発活動を行い、我が国の統計の進歩に顕著な貢献をした。
--------------------------	---

平成 19 年度 (2007 年)

- 1 著書、論文等によって、我が国の統計実務の進歩に直接貢献した人

吉村 功	多年、統計専門家として、厚生労働省の新薬申請審査業務に参画するとともに、公害問題に対する統計的アプローチの実践など、応用統計的方法の研究と教育に従事し、数多くの著書、論文等を著して、実務家への適切な統計手法の啓蒙、統計学的方法論の発展、患者調査の方法の改善等を行い、我が国の統計実務の進歩に直接貢献した。
------	--

- 2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

河野 博	37年間にわたり、工業統計調査(22回)、商業統計調査(15回)、事業所・企業統計調査(15回)、国勢調査(6回)など合計98回の統計調査に従事し、確実な統計調査の実施と他の統計調査員の指導に尽力した。また、平成10年から現在に至るまで、伊勢原市統計調査員親睦会の会長として、統計調査員の資質の向上と統計知識の普及、啓発に中心的役割を果たし、我が国の統計の進歩に貢献をした。
------	---

北嶋 一夫	57年間にわたり、工業統計調査(53回)、事業所・企業統計調査(24回)、商業統計調査(20回)、国勢調査(13回)など合計165回の統計調査に従事し、統計調査の円滑な実施に尽力した。また、平成8年から13年まで弘前市統計協会の会長として、統計調査員の指導・育成に努めるとともに、平成11年から13年までは青森県統計協会の副会長として、統計思想の普及等に寄与し、我が国の統計の進歩に貢献した。
高橋 初枝	厳しい調査環境の中、35年間にわたり、家計調査(36回)、消費動向調査(29回)、単身世帯収支調査(9回)など85回の統計調査に従事し、正確で迅速な統計調査の実施と統計業務の推進に寄与し、他の統計調査員の模範となっている。また、平成16年には、総務省統計研修所の本科の講師を務めるなどの活動を通じて、我が国の統計の進歩に貢献した。

- 2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人
3 多年統計の普及に努め、我が国の統計の進歩に貢献した人

木地 三千子	経済産業省において、36年間、統計解析業務に携わり、この間、第3次産業活動能力・稼働率指数や製造業グローバル出荷指数などの解析手法の開発を行ったほか、鉱工業生産活動分析に第3次産業の分析を加えるなど、経済統計の加工・分析の充実、向上に努めるとともに、統計分析結果の広報・普及を工夫して統計の利用促進を図るなど、官庁統計の発展、普及、啓発に尽力し、我が国の統計の進歩に貢献をした。
--------	---

平成 20 年度 (2008 年)

- 1 著書、論文等によって、我が国の統計実務の進歩に直接貢献した人

田栗 正章	38年間にわたり、標本調査理論を中心とする統計的方法の実践的研究と教育に従事する間、研究の成果を官庁統計分野や大気環境分野、臓器移植分野などに適用し、これらの分野における知見に関する著書、論文等によって統計実務の進歩に直接貢献した。
-------	--

- 2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

穂元 豊一	48年間にわたり、工業統計調査(40回)、商業統計調査(19回)、事業所・企業統計調査(15回)、国勢調査(9回)など、合計236回の統計調査に従事し、確実な統計調査の実施と他の統計調査員の指導に尽力した。また、青森市統計公友会の会長(9年間)として、統計調査員の資質の向上に尽力し、さらに、青森県統計協会の副会長(6年間)として、統計思想の普及、啓発に尽力して、我が国の統計の進歩に貢献した。
竹村 伊津子	28年間にわたり、財務省において法人企業統計調査業務に従事し、標本設計、資本金階層区分、調査項目、業種分類、調査対象業種の見直し等、諸制度の改正に積極的に関わるとともに、調査結果の公表の早期化を推進するなど、法人企業統計調査の充実・発展に尽力し、我が国の統計の進歩に貢献した。
山川 彌栄子	家計調査を30年にわたって担当するほか、家計調査以外にも39年間に工業統計調査(29回)、商業統計調査(15回)、国勢調査(8回)など合計92回の統計調査に従事し、確実な統計調査の実施と他の統計調査員の指導に尽力した。また、昭和49年から現在に至るまで、徳島市統計調査推進協議会の役員として、統計調査員の確保や資質の向上に尽力し、我が国の統計の進歩に貢献した。

平成 21 年度 (2009 年)

- 2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

牛尾 義法	総務省において、19年間にわたり統計業務に従事し、統計の総合調整、日本標準商品分類の第5回改訂、日本標準産業分類の第10回、11回改訂に尽力したほか、国際研修協力官として国連アジア太平洋統計研修所の研修業務の充実を図り、我が国の統計の進歩に貢献した。
手塚 正夫	38年間にわたり、工業統計調査(18回)、商業統計調査(12回)など合計86回の統計調査に従事し、確実な調査の実施に努めたほか、この間、座間市統計調査員協議会の設立発起人となり、設立後は27年間にわたり会長として統計調査員の資質向上等に努めた。また、昭和62年から毎年、座間市と共催で、小学生を対象に「統計グラフ作り方教室」を開催して統計の普及、啓発に努め、我が国の統計の進歩に貢献した。
町田 セツ	家計調査に27年間従事したほか、家計調査以外にも34年間に、工業統計調査(26回)、商業統計調査(14回)、事業所・企業統計調査(9回)、国勢調査(6回)など149回の統計調査に従事し、正確かつ円滑な調査の実施に努めたほか、この間、平成11年から現在まで10年間、山形市経済統計調査員協議会の会長として統計調査員の資質向上等に努め、我が国の統計の進歩に貢献した。
松村 シズエ	総務省、独立行政法人統計センターにおいて、41年間にわたり統計業務に従事し、この間、統計情報の利活用・提供システムの開発整備、汎用サンプリングシステムの開発、オンライン端末等を活用したリアルタイム処理による集計システムの構築などに尽力し、我が国の統計の進歩に貢献した。
渡邊 厚子	39年間にわたり、工業統計調査(32回)、小売物価統計調査(19回)、商業統計調査(15回)、事業所・企業統計調査(15回)、国勢調査(8回)など169回の統計調査に従事し、正確かつ迅速な調査の実施に努めたほか、この間、小山市統計推進協議会の設立に尽力し、平成13年から現在まで8年間にわたり会長として、統計調査員の確保、育成、資質の向上等に努め、我が国の統計の進歩に貢献した。

平成 22 年度 (2010 年)

1 著書、論文等によって、我が国の統計実務の進歩に直接貢献した人

腰原 久雄	多くの著書、論文等で複数の官庁にまたがる官庁統計の問題点などを指摘して改善に導いたほか、統計審議会の「統計行政の新生・長期構想」の立案に際して、報告者負担と地方統計機構の問題点を明らかにし、新統計法の成立、さらに統計委員会における「公的統計の整備に関する基本的な計画」の作成に大きな影響を与えるなど、我が国の統計実務の進歩に直接貢献した。
-------	---

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

大橋 正	厚生労働省において、31 年間にわたり統計業務に従事し、この間、新しい厚生統計調査体系の構築、人口動態調査の処理体制の改革、衛生統計の改善・整備、21 世紀出生児縦断調査等 3 本の縦断調査の創設等に貢献したほか、統計委員会基本計画部会のワーキンググループへ参画するなどして、統計行政の推進に寄与し、我が国の統計の進歩に貢献した。
高久 啓子	37年間にわたり、家計調査(26回)、商業統計調査(13回)、工業統計調査(8回)、国勢調査(6回)など合計128回の統計調査に従事し、確実な統計調査を実施して、他の統計調査員の模範となっている。また、統計委員会委員や総務省政策統括官との懇談会において、家計調査員としての多年の経験に基づいた意見を述べることで統計行政の推進に寄与し、我が国の統計の進歩に貢献した。
寺西 政子	38 年間にわたり、工業統計調査(34 回)、労働力調査(18 回)、国勢調査(7 回)など合計 174 回の統計調査に従事し、確実な統計調査の実施と他の統計調査員の指導に尽力した。また、昭和 62 年から現在に至るまで、高松市統計調査協議会の理事、副会長、会長として、統計調査員の資質の向上に尽力したほか、高松市と共同で統計調査員大会を開催して統計の普及に努め、我が国の統計の進歩に貢献した。
二上 唯夫	内閣府において16年間にわたり統計業務に従事し、この間、生産勘定、資本勘定等の推計精度向上のため、推計方法の開発整備を行ってきた。SNA(国民経済計算)体系のコア勘定に係る開発整備、SNA関連統計の開発整備等に貢献したほか、統計審議会のサービス統計整備研究会に参画するなどして、統計行政の推進に寄与し、我が国の統計の進歩に貢献した。

平成 23 年度 (2011 年)

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

1 著書、論文等によって、我が国の統計実務の進歩に直接貢献した人

桑原 廣美	総務省において、26 年間にわたり統計業務に従事し、産業連関表推計方法の改善と精度向上、阪神淡路大震災後の家計調査の早期復旧と継続性の確保などで公的統計の整備に貢献したほか、統計調査の報告負担に関する先駆的な調査研究、「統計行政の新たな展開方向」の取りまとめ等、統計の総合調整において特筆すべき業績を挙げた。一方で、学会活動では、経済統計研究の推進及び公的統計に関する共同研究を通じた人材の育成・拡大に尽力し、我が国の統計と統計実務の進歩に直接貢献した。
-------	---

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

芳賀 春枝	35 年間にわたり、家計調査(25 回)、労働力調査(11 回)、国勢調査(7 回)など 140 回の統計調査に従事し、正確、迅速な統計調査の実施に努め、この間、いわき市統計調査員協議会の副会長・会長、福島県統計調査員協議会連合会の副会長・会長として、統計調査員の資質の向上に尽力したほか、福島県と共同で福島県統計大会を開催するなど統計の普及に尽力し、我が国の統計の進歩に貢献した。
村上 陽子	39年間にわたり、工業統計調査(39回)、商業統計調査(12回)、事業所・企業統計調査(11回)、国勢調査(8回)など132回の統計調査に従事して、確実な統計調査を実施し、この間、尾道市常任統計調査員研究協議会の副会長、会長として、統計調査員の確保や資質の向上に尽力して、我が国の統計の進歩に貢献した。

4 統計の実務又は普及を通じ、我が国の統計の進歩に顕著な貢献をした人又は団体等

団体名称： 一般社団法人日本不動産研究所	「市街地価格指数」、「田畑価格及び賃借料調」、「山林素地及び山元立木価格調」、「全国賃料統計」、「不動産投資家調査」等の調査を実施して、不動産の価格、賃料、利回り等の統計の整備に尽力し、また、不動産の総合的シンクタンクとして、国内外の不動産に関する調査研究を行い、季刊誌「不動産研究」や講演会等で情報の提供に尽力し、我が国の統計の進歩に顕著な貢献をした。
-------------------------	---

平成 24 年度 (2012 年)

1 著書、論文等によって、我が国の統計実務の進歩に直接貢献した人

北川 源四郎	統計数理研究所において時系列解析の研究に従事した成果は、著書及び実用的な手法の開発を通して広く用いられている。とくに、地下水位の分析に関連した自動処理・信号抽出の技術は、地震予知への応用が期待されている。さらに、政府が公表する経済データに関して、同氏が開発した理論・方法が利用されるなど、我が国の統計実務の進歩に貢献した。
--------	---

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

鈴木 定光	警察庁において 31 年間にわたり犯罪統計事務に従事し、その間、犯罪統計簡易利用システムの導入に携わり、同システムを用いた捜査関係資料、防犯関係資料等の作成を奨励して、都道府県警察の統計の活用普及に努めるとともに、犯罪統計の担当者への実地指導を行ってその育成に努めるなど、我が国の統計の進歩に貢献した。
田所 喜美子	52年間にわたり、国勢調査10回、工業統計調査30回、事業所・企業統計調査13回など157回の統計調査に従事し、正確、迅速な統計調査の実施に努め、この間、習志野市統計協会の理事・副会長として、他の調査員との情報交換や指導を積極的に行うなど、統計調査員の資質の向上に尽力し、我が国の統計の進歩に貢献した。
西村 昇	49年間にわたり、工業統計調査46回、商業統計調査19回、事業所・企業統計調査13回、漁業センサス12回など176回の統計調査に従事し、確実な統計調査の実施に努め、この間、八戸市統計協会の副会長・会長・顧問として、統計調査員の資質の向上に尽力するなど、我が国の統計の進歩に貢献した。

平成 25 年度 (2013 年)

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

神馬 チエ	45 年間にわたり、工業統計調査 31 回、毎月勤労統計調査 22 回、家計調査 11 回など 187 回の統計調査に従事し、何れの調査においても統計調査の重要性や必要性を十分理解し、丁寧な調査客体への対応で正確な調査を長年続け、我が国の統計の進歩に貢献した。
鈴木 登美子	41 年間にわたり、小売物価統計調査 40 回、工業統計調査 22 回、家計調査 16 回など 145 回の統計調査に従事し、正確で迅速な統計調査の実施に努め、この間、いわき市統計調査員協議会の副会長として、会の組織強化と調査員の資質向上に尽力するなど、我が国の統計の進歩に貢献した。
伏見 宗一	総務省統計局等において長年統計実務に従事し、この間、日本標準産業分類及び日本標準職業分類の累次改訂において、国勢調査等の集計業務で培った統計分類に関する専門的知見により、統計審議会分類部会等における改訂案の検討に参画して主導し、併せて各府省の分類担当部局との連絡・調整を重ねて統計の相互比較と有効性の向上に努めたほか、分類に携わる職員の人材育成に取り組むなど、我が国の統計の進歩に貢献した。
眞玉 小夜子	37年間にわたり、商業動態統計調査42回、工業統計調査32回、生産動態統計調査28回など229回の統計調査に従事し、正確で迅速な統計調査の実施に努め、この間、島根県統計調査員協議会連合会及び松江市統計協会の会長として、統計思想の普及・啓発に尽力するなど、我が国の統計の進歩に貢献した。

平成 26 年度 (2014 年)

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

神保 正志	長年にわたり農林水産統計業務に従事し、この間、地域区分を地域構造の変化等を踏まえ大幅に見直し、全国の市町村を土地利用的側面から類型化した「農業地域類型」の導入・確立に主導的な役割を果たしたほか、漁業の経営に関する統計調査について、漁家の所得等に重点を置いていた漁業経済調査から、漁業経営の実態をよりの確に把握するための漁業経営調査として再編・整備を行うなど、我が国の統計の進歩に貢献した。
菅井 ひろ子	35 年間にわたり、工業統計調査 35 回、家計調査 29 回、石油等消費構造統計調査 22 回など 197 回の統計調査に従事し、とりわけ世帯に理解を求めのが大変な調査である家計調査については、誠実な対応により調査世帯との信頼関係を構築し、正確な統計調査を続けたほか、山形市統計調査員協議会連合会の副会長等として、調査員の資質の向上に尽力するなど、我が国の統計の進歩に貢献した。
服部 哉子	46 年間にわたり、工業統計調査 41 回、労働力調査 20 回、石油等消費構造統計調査 20 回など 199 回の統計調査に従事し、調査の円滑な実施に努めるとともに、調査員としての永年の経験を基に、指導員としてもその能力をいかんなく発揮し、調査員への適切な指導・助言に努めるなど、我が国の統計の進歩に貢献した。

松岡 榮子	40年間にわたり、鉱工業動態統計調査60回、商業動態統計調査37回、労働力調査28回、家計調査16回など280回の統計調査に従事し、特に困難とされる家計調査を継続して担当する一方で、長野市常任統計調査員として、調査方法の工夫・改善、調査結果の精度向上に常に努力するなど、我が国の統計の進歩に貢献した。
-------	--

平成 27 年度 (2015 年)

1 著書、論文等によって、我が国の統計実務の進歩に直接貢献した人

松田 芳郎	我が国政府による統計調査の在り方に関して多方面からその改善に向けて尽力した。とりわけ、研究代表者として文部科学省科学研究費重点研究を企画して、統計学界、経済学界の多くの研究者を動員した研究によって公的統計の二次利用の有用性を検証するという画期的な成果を残したことは、統計法の改正において二次利用の環境を大幅に改善することに直結し、我が国の統計の進歩に貢献した。
-------	--

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

神應寺 佳津子	40年間にわたり、石油等消費構造統計調査(27回)、労働力調査(13回)、商業統計調査(12回)など187回の統計調査に従事し、正確で円滑な統計調査の実施に貢献したほか、調査員の経験を基に、指導員として調査員への適切な指導・助言に努めるなど、我が国の統計の進歩に貢献した。
米岡 富美恵	42年間にわたり、家計調査、工業統計調査(10回)、商業統計調査(7回)、全国消費実態調査(3回)など86回の統計調査に従事し、中でも世帯の協力を得ることが困難とされる家計調査に42年間もの長きにわたり従事するとともに、的確な助言により後進の育成に努めるなど、我が国の統計の進歩に貢献した。

平成 28 年度 (2016 年)

1 著書、論文等によって、我が国の統計実務の進歩に直接貢献した人

田中 豊	計算機統計学、多変量解析学の理論及び応用の研究において多大な貢献をした。とりわけ、数量化法や主成分分析、因子分析、正準相関分析、共分散構造分析など各種の多変量解析における影響の大きい観測値を効率的に見つける感度分析法を提案して、多くの独創的で新しい業績を残し、また、統計実務家が手軽にデータ解析を行えるようパソコン統計解析ハンドブックを刊行するなど、我が国の統計の進歩に貢献した。
------	--

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

菊川 伸子	家計調査、生産動態統計調査、工業統計調査など48年間にわたり160回の統計調査に従事し、中でも世帯の協力を得ることが困難とされる家計調査に45年間もの長きにわたり従事し、調査客体への丁寧な説明ときめ細かな対応で信頼関係を築き、円滑な調査実施に努めるなど、我が国の統計の進歩に貢献した。
近藤 登雄	総務省統計局において長年統計実務に従事し、この間、労働力統計の改善に大きく貢献した。とりわけ、調査員による調査票の配布・取集が困難な状況が増えている状況下、世帯調査として初めてオンライン調査を導入し、また、調査実施事務の民間委託が求められている中、一部の自治体との密接な連携の下、民間委託を実施するなど、大規模な公的統計の円滑な実施に必要な要素を取り込み、さらに、統計検定試験の立ち上げに携わるなど、我が国の統計の進歩に貢献した。
住谷 知美	工業統計調査、労働力調査、商業統計調査など47年間にわたり331回の統計調査に従事し、数多くの種類の統計調査に従事したことによる豊富な知識と経験、円滑な調査実施に努力を惜しまない統計調査に対する真摯な姿勢により、他の多くの統計調査員の模範となるなど、我が国の統計の進歩に貢献した。

平成 29 年度 (2017 年)

2 多年統計実務に従事して、我が国の統計の進歩に貢献した人

榑原 和子	工業統計調査、小売物価統計調査、商業統計調査など48年間にわたり196回の統計調査に従事し、精確かつ迅速な統計調査に尽力するとともに、この間、市の統計調査員協議会の結成に参画し、役員として会の組織強化と統計調査員の資質向上に尽力するなど、我が国の統計の進歩に貢献した。
-------	--

<p>ひね やすこ 日根 裕子</p>	<p>小売物価統計調査、家計調査、消費動向調査など47年間にわたり106回の統計調査に従事し、中でも世帯の協力を得ることが困難とされる家計調査に38年間もの長きにわたり従事し、調査客体への丁寧な説明と記入方法の指導など真摯な対応を心掛け、他の調査員の模範となるなど、我が国の統計の進歩に貢献した。</p>
<p>びやじま かずこ 美谷島 和子</p>	<p>工業統計調査、労働力調査、家計調査など39年間にわたり181回の統計調査に従事し、中でも世帯の協力を得ることが困難とされる家計調査に現在まで23年間従事しており、困難な調査への積極的な取り組みと調査方法の独自の創意工夫により、他の統計調査員の模範となるなど、我が国の統計の進歩に貢献した。</p>
<p>よしはら せつこ 吉原 節子</p>	<p>工業統計調査、家計調査、生産動態統計調査など43年間にわたり225回の統計調査に従事し、31年に及ぶ家計調査を含む多岐にわたるいずれの調査に対しても、調査内容について丁寧に正確な説明を根気よく行い、調査への理解と協力を得て正確な調査を遂行するなど、我が国の統計の進歩に貢献した。</p>